

〔第三十六條〕 債權者 第三節 債權者集會

一九〇

第三十六條 決議ハ出席シタル債權者ノ過半数ヲ以テ爲スヲ通例ト
ス其過半数ハ出席員ノ有スル債權額ノ半ヨリ多キ額ニ當ルコトヲ要
ス

〔義解〕 本條ハ普通債權者集會ニ於ケル議決法ヲ定メタルモノナリ而
シテ此議決ニ付キ人員及ヒ金額ノ兩者共ニ多數タルヲ必要トスル所
以ノモノハ若シ單ニ人員ノ多少ニノミ依ルトキハ多額ナル債權者ハ
少額ナル債權者ニ制セラレテ不利益ヲ被フルニ至ル可ク之ニ反シ金
額ノ多少ニノミ依ルトキハ又其反對ノ結果ヲ生ス可キニ因ルナリ而
シテ何レノ場合ニ於テモ出席員ノ多數決ニ從ヒ其員數ノ多寡ヲ問ハ
サルモノハ則チ欠席者ヲ以テ總テ異議ナキモノト看做シタルニ因ル
カ故ニ出席者ノ員數如何ニ僅少ナリト雖モ固ヨリ有効ノ議決ヲ爲ス
コトヲ得ヘキモノトス是債權者集會ハ普通ノ集會ト大ニ其組織ヲ異
ニスルモノアルニ因ルナリ

本條ニ於ケル議決法ハ所謂普通債權者集會ニ於テ適用ス可キモノナ
リ故ニ協諾契約ニ係ル集會ニ付テハ第一千三十九條ニ於テ別ニ之ヲ定
ム

債權者ノ員數ヲ算スルニ付數多ノ疑問ヲ生スルコトアルハ各國ノ實
例ニ於テ往々見ル所ナリ是多クハ債權ノ讓渡ニ因リテ生ス可キモノ
ニシテ例ヘハ一債權者カ數債權者ノ讓受人ナルトキハ其一債權者ニ
與フルニ其讓渡人ノ員數ニ均シキ發言權ヲ以テスルヲ得ヘキヤ(第一)
又一箇ノ債權ヲ分割シテ之ヲ數人ニ讓渡シタルトキハ其數人ハ各々
一箇ノ發言權ヲ有スルヲ得ヘキヤ(第二)ノ類ノ如シ今之ヲ學說ニ照ス
ニ右第一ノ場合ニ於テハ一債權者常ニ一箇ノ發言權ヲ有スルモノト
ナシ而シテ第二ノ場合ニ在テハ其讓渡ノ破産宣告前ナルト否トニ依リ
テ區別ヲ爲シ則チ破産宣告以前ナルニ於テハ數債權者ハ各々一ノ發

言權ヲ有ス可シト雖モ若シ其破産宣告以後ナルニ於テハ數債權者ノ
間ニ唯一ノ發言權ヲ有スルモノトナセリ

第三十七條 集會ニ於テハ破産主任官ハ破産手續ノ從來ノ成行ニ付
テノ報告ヲ爲シ管財人ハ管財ノ處理其結果及ヒ財團ノ現況ニ付テノ
報告ヲ爲ス

集會ハ右ノ報告ニ付テ決議ヲ爲シ若シ破産主任官又ハ管財人ノ意見
アリタルトキハ其意見及ヒ債權者ノ爲シタル申立又ハ破産主任官ノ
認可ヲ受ケテ破産者ノ爲シタル申立ニ付テ決議ヲ爲ス可シ此等ノ決
議ハ裁判所ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

〔義解〕 本條ハ債權者集會ノ通常行フ可キ事項ヲ列擧シタルモノナリ
爰ニ破産者ヨリ申立ヲ爲スニハ破産主任官ノ認可ヲ受ケタル後ニ於
テス可シトスル所以ノモノハ若シ此制限ナキトキハ破産者ニ於テ徒
ラニ無責任ノ發言ヲ爲シ以テ議場ノ整理ヲ妨クル等ノ恐アルニ因ル
ナリ又集會ノ決議ヲシテ裁判所ノ認可ヲ受ケシムル所以即チ裁判所

ノ認可アルニ非サレハ其議決ヲ以テ有効トセサル所以ノモノハ不當
ナル理由ニ基ケル議決ハ管ニ少數論者ヲ壓制シテ其利益ヲ害スルノ
ミナラス併セテ公益ヲ害スルノ結果トナルヲ以テ此場合ニ在テハ裁
判所ニ於テ之ヲ破棄シ更ニ第二會議ニ付シ以テ公平ナル議決ヲ爲サ
シムルノ必要アルニ因ルナリ

第七章 協諧契約

〔字解〕 協諧契約ノ定義ニ付テハ前ニ既ニ説明セシ所アリト雖
モ爰ニ本章ヲ講スルニ當リ更ニ之ヲ詳説スル亦敢テ無用ノ業
ニ非サル可シ則チ協諧契約(英語「コンポジション」)トハ債權者カ
破産者ヲシテ負債ノ支拂ヲ容易ナラシメ且常ニ債權ノ幾分ヲ
釋放シ破産者ヲシテ従前ノ如ク自ラ商業ヲ行フコトヲ得セシ
ムル所ノ契約ヲ謂フ而シテ此契約ハ次條ノ規定ニ從ヒ多數決

ヲ以テ之ヲ完結ス可キモノナレハ少數債權者ニ在テハ其意ニ反シタル契約ニ從フノ結果ヲ生ス可シト雖モ若シ夫レ破産者カ他ニ對シテ信用アル者ナルニ於テハ之ニ對シ該契約ノ申出ヲ承諾スルハ管ニ破産者ノ利益タルノミナラス併テ債權者ノ利益タルヲ得ヘシ何トナレハ此方法ニ依ルトキハ裁判上ノ管理ヲ止ムルカ爲メニ幾多ノ費用ヲ節減シ及ヒ即時賣却ヲ要セサルカ爲メニ財産ノ價額ヲ増加シ其他破産處分ヲ免レタルカ爲メニ親族故舊ヨリ扶助若クハ前貸ヲ受ケ以テ取引ヲ繼續スルヲ得ル等ノ便益アリテ之ヲ債權者カ破産財團ノ配當ヲ受クルニ比スレハ更ニ多額ナル辨償ヲ受クルノ見込アレハナリ

第三十八條 法律上ノ義務ヲ履行シタル破産者ニシテ有罪破産ノ判決ヲ受ケス又其審問中ニ在ラサル者ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケ第一ノ集會ニ於テ債權者ニ協諾契約ヲ提供スルコトヲ得又十分ノ理由アリ

ルトキハ以後ノ集會ニ於テモ之ヲ提供スルコトヲ得然レトモ其提供一回ニ限ル

第一ノ集會ハ普通ノ調査會ヨリ四週日後ニ之ヲ爲ス協諾契約ノ申立書ハ少ナクトモ集會ノ二十日前ニ之ヲ裁判所ニ差出シ裁判所ハ之ヲ公衆ノ展閱ニ供シ且其旨ヲ公告ス可シ

〔義解〕 本條ハ主トシテ協諾契約ノ申出ヲ爲スニ付テノ要件ヲ掲ケタルモノナリ今左ニ之ヲ列擧シ以テ聊カ之カ解説ヲ付ス可シ

第一 法律上ノ義務ヲ履行シタル者タルヲ要ス 法律上ノ義務トハ

例ヘハ第九百七十九條ニ從ヒ支拂停止ヲ爲シタルヨリ五日以内ニ本人ヨリ其旨ヲ裁判所ニ届出且其届出ト共ニ貸借對照表及ヒ商業帳簿ヲ差出ス可キ義務其他第九百九十條第九百九十一條第千十二條及ヒ第千三十五條ニ於テ規定シタル義務ヲ謂フナリ

第二 有罪破産ノ判決ヲ受ケサル者タルヲ要ス 有罪破産ノ判決トハ詐欺破産(第千五條)又ハ過怠破産(第千五條)ノ判決ヲ謂フ佛國其他二三

國ノ法律ニ於テハ該破産ノ制限ヲ以テ單ニ詐欺破産ノミニ止ルト
雖モ本條ニ於テハ概シテ有罪破産トアルヲ以テ則チ過怠破産ヲモ
包含スルナリ

然レモ此二箇ノ判決ハ單ニ現破産ニ係ル場合ニ限ルモノナリ故ニ曾
テ有罪破産ノ判決ヲ受ケタル者ト雖モ現破産ニ於テ之ヲ受ケタルニ
非サル上ハ固ヨリ本條ノ問フ所ニ非サルモノトス

第三 有罪破産事件ノ審問中ニ在テサル者タルヲ要ス 前項ノ如ク
未タ有罪破産ノ判決ヲ受ケスト雖モ其見込ヲ以テ既ニ審問ニ著手
セラレタル者ニ在テハ其判決ニ依リテ無罪トナルニ非サレハ則チ
之ヲ正實ナル破産者ト看做スヲ得ス

第四 破産主任官ノ認可ヲ受ケルニトテ要ス 破産主任官ハ協諧契
約ノ申立ヲ受ケタルトキハ右數項ノ要件ニ適合スルヤ否ヤヲ調査

セサル可ラサルノミナラス抑協諧契約ノ申立ニハ各債權者ニ對シ
テ辨濟ス可キ方法等ヲ掲ク可キモノナレハ其方法ノ適當ニシテ且
破産者カ果シテ之ヲ實行スルヲ得ルノ見込アルヤ否ヤヲ調査セザ
ル可ラス故ニ破産主任官ニ於テ其申立ヲ相當ナリトスルキニ限リ
之ヲ認可ス可キモノトス但破産主任官ニ於テ其申立ヲ却下シタル
トキハ第九百八十三條ニ從ヒ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スニトテ
得ヘキモノナリ

第五 第一ノ集會ニ於テセサル可ラス 第一ノ集會ハ本條末項ニ規
定スル如ク調査會ヨリ四週日後ニ開ク可キモノナリ而シテ協諧契
約ノ申出ハ之ヲ第一集會ニ於テス可シトスル所以ノモノハ調査會
ヲ開キタル後ニ非サレハ協諧契約ヲ以テ辨濟ス可キ割合ヲ定ムル
コヲ得サルニ因ルナリ又十分ノ理由アルニ非サレハ以後ノ集會ニ

(第千三十八條) 協諧契約

於テスルヲ得ストスル所以ハ若シ此制限ナキニ於テハ此申立ノ爲
メ徒ラニ破産處分ノ手續ヲ濫滞セシムルノ恐アルニ因ルナリ

第六 提供ハ一回ニ限ル 若シ之ヲ屢スルコトヲ許スニ於テハ最初
ハ少額ナル割合ヲ以テ辨濟方法ヲ申立其許可ヲ受ケサルニ至リ更
ニ其割合ヲ増加スル等所謂掛直ヲ付シテ申出ヲ爲シ以テ債權者ノ
情勢ヲトスルノ弊害アルニ因ルナリ

第七 第一集會ノ二十日前ニ於テスルコトヲ要ス 是債權者ヲシテ
協諧契約ノ申出ヲ承諾スルト否トニ付キ十分ノ取調ヲ爲シ以テ其
利害ヲ考量セシム可キ時間ヲ與ヘサル可ヲサルニ因ルナリ
以上ノ要件ニ適合スルニ於テハ裁判所ハ協諧契約ノ申立書ヲ公示シ
且其申立書ヲ差出シタルニ付之ヲ裁判所ニ揭示スル旨ヲ公告ス可キ
モノトス而シテ各債權者ハ別段ノ告知ヲ受クルコトナク則チ此公告ニ

依リテ當然告知ヲ受ケタルモノトナルナリ但此公告ノ方法ニ付テハ
第九百八十一條ニ於テ既ニ説明セシ所ノ如シ

第千三十九條 協諧契約ヲ承諾スルニハ出席シタル債權者ノ過半数ノ
承諾ヲ要ス其過半数ハ議決權アル總債權額ノ四分三以上ニ當ルコト
ヲ要ス
管財人及ヒ議決權ヲ有スル債權者又後ニ至リ債權ノ確定シタル債權
者ハ協諧契約ニ對シテ十日内ニ理由ヲ附シタル異議ヲ裁判所ニ申立
ツルコトヲ得

〔義解〕 本條第一項ハ協諧契約ニ付テノ議決法ヲ規定シタルモノニシ
テ第千三十六條ニ於テ説明セシ如キ理由アルヲ以テ其議決ハ人員及
ヒ債權ノ共ニ多數タルヲ必要トスルナリ但其多數ノ割合ニ付テハ自
ラ第千三十六條ニ異ナルモノアリ
議決權アル總債權額トハ第千二十六條ニ依リテ確定シタル債權及ヒ
第千二十八條ニ依リテ參加スルコトヲ得ヘキ債權者ノ債權ヲ合算シ

タル總額ヲ謂フ

人員ノ多數ヲ算スルニハ第千三十六條ニ於ケルカ如ク出○席○シ○タル○債○權○者○ノ○過○半○數○ニ○依○ル○可○キ○モ○ノ○ナ○リ○ト○雖○モ○債○權○ノ○多○數○ヲ○算○ス○ル○ニ○付○テ○ハ○大○ニ○同○條○ニ○異○ナル○モ○ノ○ア○リ○則○チ○同○條○ニ○於○テ○ハ○出○席○員○ノ○有○ス○ル○債○權○額○ノ○半○ヨ○リ○多○キ○額○ニ○當○ル○コ○ト○ヲ○要○ス○ト○ア○レ○ル○モ○本○條○ニ○於○テ○ハ○特○ニ○左○ノ○二○條○件○ヲ○要○ス○ル○モ○ト○ナ○セ○リ

第一 債權額ハ出席シタル債權者ノ有スルモノナルト闕席シタル債權者ノ有スルモノナルトヲ問ハズ總テ之ヲ算入スルコト

第二 債權額ノ半額以上ヲ以テ足レリトセズ即チ四分三以上タルヲ必要トスルコト

右ノ如ク闕席者ノ有スル債權ヲモ算入ス可キモノナルヲ以テ僅ニ一回ノ集會ノミニテハ合式ノ多數ヲ得ルコト極メテ困難ナルカ故ニ白

法(白商第五條)ニ於テハ單ニ人員ノミニ多數ヲ得又ハ金額ノミニ多數ヲ得タルトキハ八日間其會議ヲ延期シ以テ再會ヲ開ク可キモノトセリ

然レモ本法ニ於テハ別ニ此ノ如キ變例ナキヲ以テ若シ一回ニテ二様ノ多數ヲ得サルトキハ該協○諧○契○約○ノ○申○立○ハ○當○然○承○諾○セ○ラ○ン○サ○ル○モ○ト○ナ○ル○ナ○リ○(因ニ曰ク白國ニ在テハ其舊法ニ於テハ人員ノ多數ハ出席者ノ有スルモノヲ算入ス可キモノナリシ然レモ新法ニ於テハ特ニ之ヲ改定シ則チ人員ニ付テモ更ニ闕席者ヲ算入ス可キモノトナシタリ) 諸右ノ議決法ニ依リ幸ニ協諧契約ノ承諾ヲ得タリトスルモ次條ノ規定ニ從ヒ更ニ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザレハ未タ之ヲ有効ナリトスルヲ得ス故ニ本條第二項ニ於テハ此議決ニ對シテ不服ナル者ハ其議決アリタルヨリ十日内ニ破産裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノトセリ但其異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者ハ管財人及ヒ最初ヨリ議決權ヲ有スル債權者并ニ集會後ニ至リ債權ノ確定シタル債權

者ニシテ且其申立ヲ爲スニ付テハ必スヤ其理由ヲ附セサルヲ得サル
モノナリ

協諾契約ノ議決ニ付テハ本條ニ於テ之ヲ規定スト雖モ其會議ノ手續
ニ付テハ一モ之ヲ定ムルモノナシ依テ佛國ノ實例ニ照シ左ニ聊カ之
ヲ付説スル所アル可シ

抑此會議ニハ破産者カ自ラ出席スルヲ原則トナシ破産主任官ノ認可
ス可キ原因アルニ非サレハ決シテ代人ヲ差出ストテ得サルモノトス
何トナシハ債權者ニ對シテ直接ニ契約ヲ取結フ可キ當事者ハ則チ破
産者タルノミナラス此會議ハ破産者ニ於テ十分權利ヲ行フコトヲ得
ヘキ貴重ナル場合ナルヲ以テナリ破産管財人ハ此會議ニ於テ第一ニ
破産ニ付テノ現況ヲ報告ス可キモノニシテ而シテ其報告書ニハ必スヤ
二箇ノ事項ヲ具備セサル可ラス則チ第一ハ債權者カ協諾契約ニ依リ

受クルコトヲ得ヘキ分配金ノ出所即チ貸方ト借方トノ比較ニシテ有
形上ノ狀況ニ係ルモノ第二ハ債權者ヲシテ契約ノ履行ヲ確信セシム
ルニ足ル可キ原因アルヤ否ヤ即チ破産者ハ正直ニシテ且才能アリト
云フカ如キ無形上ノ狀況ニ係ルモノ是ナリ右ノ報告アリタル後破産
者ハ其意見ヲ陳述シ或ハ破産管財人ノ報告ニ對シテ反駁スルヲ得ヘ
ク殊ニ債權者ヨリ得サル可ラサル信用ノ原素ニ付テハ十分之ヲ辯明
スルヲ得ヘキモノトス又債權者ニ在テハ破産者ノ申出ニ對シ或ハ分
配金ノ増加スルヲ得ヘキ原因アルヲ證明シ又ハ執行期限ノ短縮スル
ヲ得ヘキ事情ヲ申述スル等適宜ニ修正ヲ加フ可キ意見ヲ開陳シタル
後初メテ可否ノ投票ヲ行フモノニシテ而シテ其會議ノ調書ハ破産主任
官ニ於テ自ラ之ヲ調製スルナリ

第一千四百條 債權者ノ承諾シタル協諾契約ハ裁判所ノ認可ヲ得テ始メ

(第一千四百條) 協諾契約

ヲ法律上有効トス其認可又ハ棄却ニ付テノ決定ハ破産主任官ノ演述ヲ聽キ前條ノ期間滿了後直チニ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ債務者及ヒ異議申立ノ權利アル者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕 本條ニ於テ債權者ノ承諾シタル協諧契約トアレハ此承諾タルヤ必スシモ各債權者ノ一致ニ出タルニ非スシテ前條ニ謂フ所ノ議決法ニ依ルモノナレハ蓋幾多ノ反對者ナキヲ得サルノミナラス既ニ承諾シタル債權者ト雖モ或ハ不正ノ原因ニ基ケル者ナキヲ保セス是ヲ以テ社會一般ノ利益ノ爲メ及ヒ各債權者ノ利益ノ爲メ協諧契約ノ成立ヲシテ弊害ヲ生セシメサル豫メ警戒ヲ爲サ、ルヲ得ス是則チ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ必要トスル所以ナリ依テ裁判所ニ於テハ該協諧契約ハ詐欺若クハ賄賂ニ因由スル如キ次條ノ規定ニ反スルコトナキヤ否ヤヲ審査シ以テ之カ許否ヲ決定ス可キモノトス然レモ此場合ニ於テ裁判所ノ有スル職權ハ之ヲ認可シ若クハ之ヲ棄却スルノ

二途ニ止マリ自ラ之ヲ修正スルカ如キハ決シテ本條ノ爲スヲ許サ、ル所ナリ

認可若クハ棄却ノ決定ヲ爲スニ付キ各債權者及ヒ破産管財人ノ意見ヲ聽ク可キモノナルヤ否ヤハ本條ニ於テ之ヲ明示セスト雖モ獨法（破産法第七十條）ニ於テハ明ニ之ヲ聽キタル上決定ス可キ旨ヲ掲ケリ而シテ實際ノ情況ヲ考フルニ假令本條ニ明文ナシト雖モ少クモ管財人ノ意見ノ如キハ勿論之ヲ聽カサルヲ得サル可キナリ

本條ノ決定書ニハ破産決定書ニ於ケルカ如ク法文上別ニ記載ス可キ事項ヲ規定セスト雖モ左ニ記載スル獨法ノ書式ハ蓋之ヲ準用スルノ價直ナキニ非サル可シ

決定書

何府縣何市何町何番地何某ノ財産ニ係ル破産手續ニ付キ破産者ヨ

（第四十條） 協諧契約

(第千四十一條) 協諧契約

1106

リ協諧契約ノ申出ヲ爲シタルニ依リ債權者集會ヲ開キタル處議決
權アル債權者ノ債權總額何々マルクノ内其出席者ノ多數ノ債權者
ヨリ明示ノ合意アリタルニ付破産者ノ協諧契約申出ハ承諾セラレ
タリ

依テ右債權者破産管財人及ヒ債權者總代ノ意見ヲ聽キ其他手續上
及ヒ協諧契約ノ取結ニ關スル諸規則ノ履行ヲ全フシ且手續施行ニ
付キ一ノ不可ナルモノアルコトナク又何人モ協諧契約ヲ棄却ス可
キ申立ヲ爲サ、ルヲ以テ當裁判所ハ某年月日ニ開キタル債權者集
會ニ於テ承諾セラレタル協諧契約ヲ認可スルモノ也

年 月 日

某區裁判所

第千四十一條

協諧契約ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ棄却ス可シ

- 第一 第千三十八條及ヒ第千三十九條ノ規定ヲ踐行セザルトキ
- 第二 協諧契約ニ依リ或ル債權者カ其承諾ナクシテ偏頗ノ處置ヲ

受ケ損害ヲ被フルトキ

第三 協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキ

第四 協諧契約カ公益ニ觸レルトキ

〔義解〕 本條ニ列記シタル條件ハ或ハ方式上ノ違反ニ係リ又ハ事實上
ノ認定ニ係ルモノナリ而シテ第四號ニ於ケル協諧契約ノ公益ニ觸ル
、ヤ否ヤノ事實ハ認定上最モ困難ナル問題ニ屬スルヲ以テ裁判所ニ
於テハ宜ク十分ノ注意ヲナシ以テ範圍ノ廣狹ヲ定メサル可ラス例ヘ
ハ破産者ヲシテ從前ノ如ク其營業ヲ行ハシムルニ於テハ爲メニ公衆
ノ惡例トナル可キ恐アル場合又ハ協諧契約ノ調フタル後相當ノ原因
ナクシテ再ヒ破産ヲ爲スニ至リ之カ爲メ債權者ノ損害ヲ増加ス可キ
恐アル場合ニ在テハ該協諧契約ハ本條第四號ノ規定ニ準シ蓋之ヲ棄
却セサル可ラサル可シ是則テ學說ノ是認スル所ナリ

第千四十二條 協諧契約ハ破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ判決ヲ受ケタ

(第千四十二條) 協諧契約

1107

ルトキハ當然消滅シ其審問中ハ免訴又ハ無罪ノ宣告ヲ受ケルマテ之ヲ停止ス

前條第三號ニ掲ケタル理由アルトキハ協諧契約認可ノ後ト雖モ尙ホ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得

〔義解〕 協諧契約ノ提供ハ有罪破産ノ判決ヲ受ケタル場合又ハ其審問中ニ在ル場合ニ於テハ元來之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニ非サルハ第一千三十八條ニ於テ既ニ規定スル所ナリ而シテ本條ノ規定ハ亦之ト同一理由ニ基クモノニシテ協諧契約ノ既ニ成立チタル後ニ於テ右ノ如キ事狀ノ生シタル場合ニ在テハ該協諧契約ハ當然無効トナシ即チ協諧契約成立以前ノ手續ニ復スルモノトスルナリ(第四條)爰ニ當然ト云フハ別段訴訟ヲ爲スコトナク有罪破産ノ判決ニ依リ自ラ協諧契約ノ無効ニ歸スルヲ謂フナリ
然レモ審問中ニ在ル場合ニ於テハ未タ之ヲ無効トナサス唯其判決

アルマテ之ヲ中止シ若シ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタルトキハ引續キ協諧契約ヲ履行スルコトヲ得ヘク若シ又有罪ノ言渡アリタルニ於テハ則チ協諧契約ハ無効ニ歸スルモノナリ
一旦成立チタル協諧契約ニ對シテハ一方ヨリ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルヲ以テ原則トスレモ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成立シタル場合ニ限り之カ例外ヲ設ケ以テ通常ノ手續ニ從ヒ起訴スルコトヲ得ヘキモノトセリ是則チ本條第二項ノ規定スル所ナリ然レモ此訴訟ノ受理セラレタルカ爲メ該協諧契約ノ履行ヲシテ當然停止セシム可キモノニ非サルコト蓋論ヲ俟タサルナリ

第一千四十三條 協諧契約ノ確定シタルトキハ管財人ハ直チニ其職務ヲ罷メ且其職務ニ付キ計算ヲ爲スコトヲ得

破産者ハ協諧契約ニ別段ノ定ナキトキニ限り任意ノ管理及ヒ處分ノ爲メ其財産ヲ取戻スコトヲ得

協諧契約ノ履行ハ破産主任官ノ監督ヲ以テ之ヲ爲ス
(第一千四十三條) 協諧契約
二〇九

〔義解〕 協諧契約ノ決定ニ對シテ抗告期間(七日)内ニ抗告ヲ爲サ、ル場合又ハ抗告ニ對スル判決ヲ以テ更ニ協諧契約ヲ認可シタル場合ニ在テハ則チ協諧契約ノ全ク確定シタルモノナレハ管財人ハ直チニ其執務ヲ罷メ且其執務中ニ係ル一切ノ計算書ヲ作り之ヲ破産主任官ニ差出シ以テ其認可ヲ受ク可キモノナリ

協諧契約ニハ種々ノ條件ヲ附スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ協諧契約後ト雖モ破産者ノ財産管理及ヒ其處分ニ付キ幾分ノ制限ヲ付スルコトナシトセス此場合ニ在テハ破産者ハ固ヨリ其制限ニ從ハサルヲ得スト雖モ通常ノ場合ニ在テハ協諧契約確定ト共ニ破産者ハ全ク以前ノ景狀ニ復シ唯其協諧契約ノ履行ヲ遵守スル義務アル外ハ毫モ通常人ニ異ナルコトナシ故ニ管財人ハ破産者ノ財産及ヒ其帳簿書類等總テ之ヲ破産者ニ差戻シ以テ之ヲ破産者ノ自營ニ任ス可キモノナ

リ

然レハ協諧契約ノ履行ニ至テハ恰モ裁判ニ依リテ義務ヲ執行スルニ異ナルコトナク特ニ之ヲ嚴守セサル可ラサルノミナラス其履行ニ付テハ破産主任官ノ監督ヲ受ク可キモノニシテ若シ其不履行ノ場合ニ在テハ次條ニ從ヒ直チニ該契約ヲ解除シ更ニ破産手續ヲ再施セラル、ニ至ル可キナリ但破産主任官ノ監督ヲ爲ス可キ手續ハ便宜之ヲ定ムルコトヲ得ヘシト雖モ協諧契約ニ從ヒ各債權者ニ支拂フ可キ金額ハ一應之ヲ破産主任官ニ交付シ破産主任官ヨリ更ニ之ヲ各債權者ニ支拂フ歟又ハ破産者ヨリ直接ニ各債權者ニ支拂ヒ其度毎ニ受取證書ヲ以テ之ヲ破産主任官ニ届出ツル歟ノ如キハ蓋之ヲ相當ノ手續ナリト謂フ可シ

第千四十四條 協諧契約ヲ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若クハ取消
(第千四十四條) 協諧契約
二二一

サルルトキ又ハ不履行ノ爲メ解除セラルトキハ破産手續ヲ再施シ直チニ財團ノ換價及ヒ配當ヲ爲シテ終局ニ至ラシム其再施シタル手續ニハ再施マテノ間ニ債權ヲ得タル者モ参加スルコトヲ得
不履行ノ場合ニ在テハ協諾契約ノ爲メ立テタル保證人ハ其義務ヲ免カレス

〔義解〕 左ノ場合ニ於テハ破産手續ヲ再施シ直チニ財團ノ換價及ヒ配當ヲ爲シテ終局ニ至ラシム可キモノトス而シテ此再施トハ更ニ管財人ヲ任命シ及ヒ協諾契約認可後ニ於ケル債權者ノ爲メ債權申出ノ公告ヲ爲シ且其認可後ノ取引ニ依リ變更シタル貸方借方ニ付キ新ニ貸借對照表ヲ作り其他破産者ノ財産ニ對シテ封印ヲ爲シ及ヒ改定目錄ヲ作ルノ類ヲ謂フナリ

第一 協諾契約ヲ棄却セラレタル場合 此場合ハ協諾契約ノ確定前ニ係ルヲ以テ破産手續ノ再施ニ付テハ唯其以後ノ手續ヲ續行スルノミニシテ別ニ二重ノ手數ヲ行フコトヲ要セス

第二 協諾契約カ後ニ至リ消滅シタル場合 此場合ハ後ニ至リ破産者カ有罪破産ノ判決ヲ受ケタルトキニ係ルモノナリ(第千四十一項)

第三 協諾契約カ後ニ至リ取消サレタル場合 此場合ハ協諾契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタリトノ異議ニ對シ後ニ至リ判決ヲ以テ取消サレタルトキニ係ルモノナリ(第千四十二項)

第四 協諾契約カ不履行ノ爲メ解除セラレタル場合 總債權者ニ對スル場合ハ勿論一債權者ニ對シテタリトモ協諾契約ヲ以テ定メタル義務ヲ履行セサルニ於テハ其者ノ申立ニ依リ判決ヲ以テ解除セラレ可キモノニシテ第四ノ場合ハ則チ右ノ判決アリタルトキニ係ルモノナリ

破産手續再施ノ場合ニ於テハ新ニ申出ツル債權者ト雖モ同一ノ權利

(第千四十四條) 協諾契約

ヲ以テ配當ニ加入スルコトヲ得ヘキモノトス是協諸契約確定後ニ在
ラハ所謂破産者ハ其財産ヲ管理シ及ヒ之ヲ處分スル權利ヲ回復スル
モノナレハ此間ニ於テ負擔シタル債務ハ其以前ノ債權者ニ對スル債
務ト毫モ其効力ヲ異ニセザルニ因ルナリ

協諸契約カ棄却セラレ又ハ後ニ至リ消滅シ若クハ取消サル、トキハ
則チ協諸契約其モノカ最初ヨリ成立タサリシモノトシテ破産者ハ從
前ノ景狀ニ復ス可キモノナレハ其附從タル保證人ニ在テハ當然其保
證義務ヲ免ル、コトヲ得ヘシト雖モ唯其契約不履行ノ場合ニ限リテ
ハ假令破産手續ヲ再施スルト雖モ保證人ニ於テハ其保證義務ヲ免ル
、コトヲ得サルモノトス是蓋保證人ハ右ノ如キ不履行ノ場合ヲ豫想
シ以テ其義務ヲ負擔シタルモノナレハ此場合ニ在テハ保證人ニ於テ
ハ毫モ最初契約ヲ結ビタル時ノ意思ニ反スルコトナシトスルニ因ルナ

第八章 配當

第千四十五條 第千三十二條ニ掲ケタル債權及ヒ優先權アル債權ヲ支
拂ヒタル後ニ殘レル財團ハ他ノ債權者ニ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ配當
ス

破産者カ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲シタル場合ニ在テハ各營業ニ對
スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團ヨリ優先權ヲ以テ辨價ヲ受ク

〔義解〕 第千三十二條ニ掲ケタル債權ハ同條ニ明記スル如ク通常ノ方
法ヲ以テ財團ノ現額ヨリ支拂ヲ受クルヲ得ヘク又優先權(第九百九
十條)ニ
シテ一般ニ涉ルモノハ財團ノ全額ニ對シ特別ニ屬スルモノハ財團中
ノ或ル物品ノ價額ヲ限トシテ共ニ之ヲ先取スルヲ得ヘキヲ以テ通常
債權者カ配當ヲ受クルコトヲ得ヘキ額ハ則チ右等ノ債權ヲ財團ヨリ
支拂ヒタル後ニ在リ且此配當ヲ受クルニ付テハ次條ニ規定スル所ノ
配當案ニ從フ可キモノトス而シテ爰ニ注意ス可キモノアリ本條ニ於

(第千四十五條) 配當

ヲハ豫メ財團ヨリ控除スルヲ得ヘキモノハ第一千三十二條ニ掲ケタル
債權及ヒ優先權アル債權ノ二種トナスト雖モ若シ破産主任官ニ於テ
破産者及ヒ其家族ニ扶助料ヲ與フルコトヲ許シタルトキハ(第七千條)併セ
テ之ヲ控除セサルヲ得サル可シ佛法及ヒ白法ノ如キハ此金額モ亦明
ニ之ヲ控除ス可キモノタル旨ヲ示セリ

本條第二項ハ第二十三條後段ノ規定ト相照應スルモノナリ則チ該規
定ニ依レハ一人ニテ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲ストキ例ヘハ十萬圓
ノ資産ヲ有スル商人カ五萬圓ヲ以テ白米商ヲ營ミ五萬圓ヲ以テ酒造
業ヲ營ムトキノ如キハ白米店ヲ以テ大阪屋ト稱シ酒造店ヲ以テ江戸
屋ト號スル如ク其營業毎ニ商號ヲ別異セサル可ク太而シテ商號ハ即
チ營業ヲ代表スルモノナレハ世人ハ大阪屋ト取引スルトキハ大阪屋
ノ資産ヲ目的トシ江戸屋ト取引スルトキハ江戸屋ノ資産ヲ目的トス

ルヲ以テ普通トナス故ニ大阪屋ニ對スル債權者ハ大阪屋ノ資産ニ對
シテ優先權ヲ有シ江戸屋ニ對スル債權者ハ江戸屋ノ資産ニ對シテ優
先權ヲ有スルモノトセサルヲ得ス是蓋本條末項ノ規定アル所以ナリ
然レトモ一商店ニ對スル債權者カ優先權ヲ行フタル後尙ホ其殘餘ア
ルニ於テハ他ノ商店ニ對スル債權者ニ對シテ更ニ之ヲ分配セサルヲ
得ス例ヘハ大阪屋ニ對スル債權者カ大阪屋ノ資産ヲ以テ完全ナル辨
濟ヲ受ケ尙ホ其殘餘アルニ於テハ則チ之ヲ江戸屋ニ對スル債權者ニ
配當セサルヲ得サルカ如シ

〔論說〕 既ニ說明セシ如ク本條第二項ハ第二十三條後段ノ規定ト相照
應スルモノナルヲ以テ此規定ト共ニ併テ之ヲ實施スルヲ相當ナリト
ス何トナレハ假令資本ヲ分チタリト雖モ商號ノ異ナルニ非サル以上
ハ第三者ニ在テハ單ニ一箇ノ商號ヲ目的トシテ取引ヲ爲ス者ナルカ

(第一千四十五條) 配當

故ニ内部ノ區別如何ニ拘ハラス其商號ノ下ニ屬スル資産ハ均ク之ヲ總債權者ノ抵當物ト看做サ、ルヲ得サレハナリ今ヤ第二十三條ハ未ダ効力ヲ有スルニ至ラスシテ而シテ特リ本條ノ實施セラル可キモノナレハ實際上蓋大ナル混雜アルヲ免レサル可シ例ヘハ一商人カ現ニ資本ヲ分チ數種ノ營業ヲ爲シタル場合ニ於テ甲種ニ對スル債權者ハ其資本ヲ分チタル事實ヲ詳知シ以テ之ト取引ヲ爲シタルニモセヨ乙種ニ對スル債權者ニシテ一モ其事實ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ果ソ本條ヲ適用スルヲ得ヘキヤ凡ソ此ノ如キ場合ニ在テハ決シテ之ヲ適用スルヲ得サル可クシテ唯、其總テノ債權者カ盡ク該事實ヲ知リタリト看做ス可キ場合ニ限リ之ヲ行フコトヲ得ルニ過キサル可シ然レモ總債權者ニ於テ盡ク之ヲ熟知スル場合ノ如キハ實際上殆ント之ヲキテ期ス可キナリ

第四十六條 配當ハ普通ノ調査會ノ終リタル後ハ配當ニ足ル可キ財團ノ生スル毎ニ管財人ノ調製シテ破産主任官ノ認可ヲ受ケタル配當案ニ依リテ之ヲ爲ス其案ハ破産主任官之ニ署名シ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ備置キ且其旨ヲ公告ス可シ
配當案ニ對スル異議ハ其公告ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ之ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

〔義解〕 配當ハ通例確定(第十六條)シタル債權ニ對シテノミ之ヲ爲ス可キ

モノナレハ必スヤ調査會ノ終ハリタル後ニ非サレハ之ヲ始ムルコトヲ得ス又此配當ハ一時ニ之ヲ爲スコトヲ要セス幾回ニテモ配當スルニ足ル可キ財團ノ生シタルトキハ管財人ニ於テ其度毎ニ配當案ヲ作り破産主任官ノ認可ヲ受ケタル後次條ノ手續ニ從ヒ逐次ニ之ヲ施行ス可キモノトス

管財人ノ作リタル配當案ニ付キ破産主任官ノ認可ヲ受ケシムル所以ノモノハ專ラ各債權ノ正當ナルヤ否ヤ及ヒ割合ノ違算ナキヤ否ヤ等

ヲ吟味スルノ必要アルノミナラス極メテ少額ナル金額ニ付キ數回配當ノ手續ヲ行フトキハ徒ラニ冗費ヲ生シ却テ債權者ヲ損害スルニ至ルコトアルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ暫ク之ヲ停止セシムル等ノ必要アルニ因ルナリ

本條第二項ニ依リ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者ハ當然之ヲ債權者ニ限ラサルヲ得ズ而シテ裁判所トハ破産裁判所ヲ是謂フナリ今此裁判所カ如何ナル手續ニ依リ裁判ヲ爲シ且此裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ本法中之ヲ規定スルモノナキヲ以テ或ハ口頭辯論ヲ要セスト云フヲ得ヘシト雖モ第千二十七條ノ規定ハ此場合ニ於テモ蓋之ヲ準用スヘキモノナリ

第千四十七條 前條ニ揭ケタル期間ニ配當案ニ對シテ異議ヲ申立ツル者ナキトキ又ハ異議ノ落著シタルトキハ管財人ハ各債權者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲ス若シ

債務證書ノ提出ヲ爲スコト能ハサルトキハ破産主任官ノ許可ヲ得テ債務表ニ依リ支拂ヲ爲スコトヲ得孰レノ場合ニ於テモ債權者ハ配當案ニ受取書ヲ記スルコトヲ要ス

〔義解〕 本條ハ不正ナル辨濟ヲ豫防シ及ヒ正確ナル受取書ヲ保存スルノ目的ニ出ツ故ニ債權者ニ於テ債權ヲ設定シタル證書ヲ提出スルコト能ハサル場合又ハ最初ヨリ該證書ノ存セサル場合ニ在テハ破産主任官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ假令確定シタル債權タリトモ之ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ得ズ又債權者ハ如何ナル場合ニ於テモ支拂ヲ受ケタルトキハ配當案ニ其金額ヲ受取タル旨ヲ記入セサル可ラサルモノトス

第千四十八條 財團ノ換價及ヒ配當ヲ全ク終リタルトキハ債權者集會ヲ開キ此集會ニ於テ管財人ハ終局ノ計算ヲ爲スコシ此計算ノ濟了シタルトキハ裁判所ハ直チニ破産主任官ノ申立ニ因リテ破産手續ノ終結ヲ決定ス此決定ハ之ヲ公告ス可シ

〔義解〕 本條ハ破産手續終結ノ處分ニ屬スル規定ニシテ且此債會ニ關スル手續ハ總テ第千三十五條以下ノ規定ニ從テ可キモノトス
 管財人ノ提出シタル計算ニ對シ多數ノ議決ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ破産裁判所之ヲ決定ス可キモノトス故ニ該裁判所ニ於テ其計算ヲ不當ナリトシタルトキハ之ヲ改正セシメタル上更ニ破産手續ノ終結ヲ決定ス可ク若シ之ヲ正當ナリトシタルトキ又ハ全ク異議ナキトキハ則チ直チニ破産手續ノ終結ヲ決定シ以テ本條ノ公告ヲ爲ス可キモノナリ

第千四十九條 破産手續終結ノ後ハ辨償ヲ受ケサル債權者ハ破産手續ニ於テ確定シタルニ因リテ得タル權利名義ニ基キ其債權ヲ債務者ニ對シテ無限ニ行フコトヲ得

〔義解〕 本條ハ破産處分ニ依リテ完全ノ辨償ヲ受クルヲ得サリシ債權者カ破産手續終結後ニ於テ債務者ニ對シテ有ス可キ權利ヲ規定シタ

ルモノナリ則チ該債權者ハ債權調査會ニ於テ一タヒ其債權ヲ確定シタルモノナレハ財團ヨリ完全ナル辨償ヲ受クルコトヲ得サリシ殘額ニ付テハ破産手續終結後ト雖モ別ニ新ナル訴訟ヲ提起スルヲ要セス既ニ確定シタル權利名義ニ基キ破産者ニ對シテ何時ニテモ強制執行ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノトス(民事訴訟法第四百九十七條以下)但權利名義ニ基クトハ債權ノ調査ヲ受クルニ當リ貸金ノ名義ナリシトキハ貸金ノ名義ヲ用非損害賠償ノ名義ナリシトキハ則チ損害賠償ノ名義ヲ用非ルヲ謂フナリ

然レモ債權調査會ニ於テハ破産者ノ異議アルト否トヲ問ハズ債權ノ確定ヲ爲ス可キモノナレハ破産處分中ハ宜シク之ニ從テ可キモ已ニ破産處分ノ終結後ニ在テハ苟クモ破産者ノ異議アル債權ニ對シテハ通常ノ手續ニ依リ更ニ相當ノ裁判ヲ受ケ以テ其義務アルヤ否ヤヲ決

ズルヲ得ヘキカ如シ是則チ獨國破産法第五十二條ノ明示スル所ニシテ或ハ以テ其宜キヲ得タルモノ、如シト雖モ本條ニ於テハ一モ此ノ如キ例外ナキカ故ニ一旦調査會ニ於テ確定シタル債權ハ則チ如何ナル種類ヲ問ハズ總テ強制執行ヲ求ムルヲ得ヘキモノト解釋セサルヲ得サルナリ

第九章 有罪破産

第千五十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前役ヲ開ハス履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一分ヲ藏匿シ轉匿シ若クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造、變造シタルトキハ詐欺破産ノ刑ニ處ス

[義解] 本條ハ商人タルト非商人タルトヲ問ハズ苟モ破産宣告ヲ受ケタル債務者ニシテ左ノ行爲アルニ於テハ詐欺破産ノ刑ニ處スト云フ

ニ在リ而シテ其行爲ハ支拂停止又ハ破産宣告ノ以前ニ在リタルト其以後ニ在リタルトヲ問フコトナキナリ

第一 履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ 例ハ格外ノ高利ヲ拂フコトヲ約シテ公衆ヲ誘ヒ以テ多額ノ金額ヲ借入レ又ハ掛買ノ約束ヲ以テ高價ニテ數多ノ商品ヲ買入レ而シテ現金ヲ以テ之ヲ低價ニ賣却スルカ如シ凡ソ此等ノ所爲ハ何レモ詐欺ノ目的ニ出タルコト勿論ナリト雖モ本條ニ於テハ破産宣告ヲ受ケタル債務者トアルヲ以テ假令右等ノ行爲アルモ未ダ破産宣告ヲ受ケサル以前ハ則チ本條ノ制裁ヲ加フルコトヲ得サルモノナリ以下皆之ニ同シ

第二 債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一分ヲ藏匿シ轉匿シ若クハ脱漏シタルトキ 爰ニ債權者ニ

損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テトアルハ宜ク讀者ノ注意スヘキ所ニシテ例ヘハ貸借對照表ニ貸方ノ一部ヲ脱漏シ後ニ至リテ發覺スルコトアリト雖モ其之ヲ脱漏セシハ全ク錯誤ニ出タリト看做スコトヲ得ルニ於テハ決シテ之ニ本條ノ制裁ヲ加フ可キモノニ非サルカ如シ之ヲ再言セハ故意ヲ以テ貸方財産ヲ藏匿脱漏スルニアラサレハ詐欺破産罪ヲ構成セサルモノトスルナリ

第三 債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ借方現額ヲ過度ニ掲ケタルトキ 借方現額ヲ過度ニ掲ケタルトハ破産者カ現ニ負フタルヨリモ多額ナル義務ヲ掲ケ又ハ全ク負ハサル所ノ債務即チ詐欺ノ負債ヲ掲ケルヲ謂フナリ

第四 債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ商業帳簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造變造シタルトキ 此行爲タル債權者ヲ害ス可

キ最モ危険ナル性質ヲ有スルモノトス何トナレハ此行爲ニ依リ債權者ハ破産者ノ業務ノ景狀ヲ窺知スルコト能ハサルニ至ルヲ以テナリ然レモ此場合ハ所謂債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思アルヲ必要トシ即チ惡意ニ出タル場合ニ限ルモノニシテ若シ夫レ怠慢又ハ輕忽ニ原由スル場合ニ在テハ次條ニ於テ別ニ之ヲ規定スル所アルナリ

現行刑法ニ於テハ家資分散ニ關スル罪ヲ罰スル法條アリト雖モ別ニ有罪破産ニ關スルモノナシ故ニ本法施行前即チ明治二十三年十月八日法律第一百號ヲ以テ此場合ニ適用ス可キ規定ヲ設ケタリ而シテ同法ニ依ルキハ詐欺破産ヲ爲シタル者ハ之ヲ輕懲役ニ處ストアルヲ以テ本條ニ謂フ所ノ詐欺破産ノ刑トハ則チ右ノ輕懲役ニ該當スルナリ加之一旦詐欺破産ノ判決ヲ受ケタル者ハ第千五十八條ニ依リ終世復

(第千五十條)有罪破産

權ヲ得ルノ道ナキモノトス

本條以下四條ニ掲ケタル刑ノ處分ニ付テハ刑法第五條末項他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フトアルニ依リ總テ該總則ヲ適用ス可キモノトス故ニ未遂其他ノ場合ニ在テハ則チ之ヲ輕減加重スルコト敢テ通常犯罪ニ異ナルコトナキナリ

第一千五百一十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ

前後ヲ問ハス左ニ掲ケル行爲ヲ爲シタルトキハ過意破産ノ刑ニ處ス

第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用博奕、空取引又ハ不相應ノ射利

ニ因リテ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ノ債務ヲ負ヒタルトキ

第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲ爲シテ支拂

資料ヲ調ヘタルトキ

第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或ル債權者ニ

利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ

第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ又ハ全ク記載セサルトキ

第五 破産者カ第三十二條、第九百七十九條又ハ第一千三百三條第三項ニ規定シタル義務ヲ履行セサルトキ

〔義解〕 本條ニ列記シタル所爲ハ總テ破産者ノ怠慢若クハ輕忽ニ原由スルモノナレハ之ヲ前條ニ照セハ其罪甚々輕シ而シテ過意破産ノ刑トハ前條ニ援用セシ明治二十三年法律第一百一號ヲ以テ規定シタルモノニシテ則チ二月以上四年以下ノ重禁錮ヲ謂フナリ

本條第四號ニ謂フ所ノ商業帳簿ヲ藏匿シ若クハ毀滅シタル點ニ付テハ既ニ前條ニ謂フ所ニ異ナルコトナシト雖モ彼ニ在テハ債權者ニ損害ヲ被アラシム可キ意思アリタル場合ニ係リ此ニ在テハ唯、其惡意ナキ場合ニ存スルハ則チ前條ニ於テ説明セシ所ノ如シ而シテ惡意ナクシテ何故ニ此ノ如キ非行ヲ企ツ可キヤニ付テハ或ハ讀者ノ疑ナキヲ得サル可シト雖モ例ヘハ帳簿中或ル祕密ノ事項ヲ記載スルアリテ之ヲ表示スルコトヲ欲セサルカ又ハ記載シタル秩序ノ甚シキ不都合アリ

テ之カ爲メ將來一層ノ信用ヲ失フ可キ恐アルカノ如キ毫モ債權者ニ
損害ヲ加フ可キ意思ナクシテ徒ラニ之ヲ藏匿シ若クハ之ヲ毀滅スル
カ如キハ實際上往々之ナキヲ得サルニ因ルナリ

第一千五百二十二條 前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取
締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第五十條ノ罰則ハ破産管財人及
ヒ有罪行為ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行為ヲ破産者ノ利益ノ爲メ
ニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

〔義解〕 業務擔當ノ任アル社員ハ合名會社又ハ六人以下ノ合資會社ヲ
代表シ取締役ハ七人以上ノ合資會社又ハ各株式會社ヲ代表シ清算人
ハ會社解散後ニ於テ其殘務ヲ專行スルモノナレハ此者等カ社會ニ對
スル責任ハ一箇人カ社會ニ對スル責任ニ同シカラサルヲ是ス是前二
條ノ罰則ヲ以テ總テ此等ノ者ニ適用スル所以ナリ故ニ數名ノ業務擔
當社員又ハ數名ノ取締役等アル場合ニ於テハ皆盡ク同一ノ制裁ヲ受

クルコトヲ免レサルナリ

管財人ハ債權者ト債務者トニ代リテ總テ破産手續ノ全躰ヲ處理シ殊
ニ調査會ニ於テ債權ノ認否ヲ申立ツ可キ職權ヲ有スルモノナレハ其
爲ス所極メテ嚴正ナラサルヲ得ス故ニ管財人ニ於テ破産者カ虛偽ノ
負債ヲ掲ケタルヲ知リナカラ之ヲ黙過スル等苟モ第一千五百十條ニ定メ
タル旨趣ニ觸ル、コトアルニ於テハ則チ之ヲ破産者ト同罪ニ處ス可
キナリ之ヲ要スルニ管財人カ罰セラル可キ場合ハ管財人自ラ第一千五
十條ニ列記シタル所爲ヲ行フニ非スシテ破産者カ之ヲ行フニ當リ或
ハ之ヲ黙過シ又ハ之ヲ幫助スル等總テ破産者ヲシテ其罪ヲ行フニ容
易ナラシメタルトキニ係ルモノナリ

通常人ニ在テハ或ハ教唆者トナリ又ハ幫助者トナリテ破産者ト共ニ
本章ノ罪ヲ犯スコト猶ホ刑法ノ所謂正犯又ハ從犯ニ該當スル場合ノ

如シ例ヘハ虚偽ノ契約ヲ承諾シ又ハ其媒介ヲ爲ス則是ナリ然レトモ本條ニ於テハ刑法(第九條)ニ依リ從犯トシテ輕減ノ利益ヲ與フルトナク則チ此場合ニ在テモ亦之ヲ破産者ト同罪ニ處ス可キモノトス

〔論說〕破産者ノ父母若クハ子孫ノ如キ親族カ未タ財産ノ封印ヲ受ケサル以前ニ於テ毫モ破産者ニ通スルコトナク則チ全ク自己ノ利益ノ爲メ破産者ノ財産ヲ藏匿シ又ハ之ヲ窃取シタルトハ如何ニ之ヲ處分ス可キ歟按スルニ本條ニ於テハ破産者ノ利益ノ爲メトアルヲ以テ此場合ニ在テハ固ヨリ本條ノ制裁ヲ加フルコトヲ得ザル可シ加之刑法ニ於テハ此ノ如キ親族間ニ在テハ互ニ財物ヲ窃取スト雖モ常ニ窃盜ヲ以テ論セサルヲ原則トナセリ(刑法第三百七十七條)然ハ則チ此親族ハ全ク之ヲ無罪者ト謂ハサル可ラサルカ余ハ爲メニ法律ノ不備ヲ嘆セサルヲ得ス夫レ人既ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル以上ハ其者ノ有スル財産ハ則

チ悉ク財團ニ歸ス可キモノナレハ其盜者ニ在テハ敢テ破産者ヲ害スルニ非スシテ全ク他人ナル總債權者ヲ害スルモノナリ然レモ破産者ニ在テハ破産宣告ニ依リ自ラ其財産ヲ處理ス可キ權利ヲ失フト雖モ其所有權ニ至テハ之ヲ賣却ニ至ル迄依然之ヲ保續スルモノナルカ故ニ法律上之ヲ他人ノ財産ナリト謂フヲ得ス從テ親族相盜ノ法律ニ依リ徒ラニ之ヲ無罪視セサルヲ得ザル可シ論者或ハ曰ク刑法第三百七十一條ニ自己ノ所有物ト雖モ官署ノ命令ニ依リ他人ノ看守シタル時之ヲ窃取シタル者ハ窃盜ヲ以テ論ストアリ而シテ破産宣告ト共ニ裁判所ハ破産者ノ財産ニ封印ヲ命シ引續キ破産管財人ヲシテ之ヲ管理ヲ爲サシム可キモノナルヲ以テ右ノ犯人ニ對シテハ該刑法ヲ適用スルヲ得ヘシト抑、此說ナルヤ犯罪カ財産ノ封印以後ナルニ於テハ或ハ以テ相當ナリトスルモ破産ノ宣告アルヤ否ヤ其瞬間ニ封印ヲ施スノ困

(第五十二條) 有罪破産

(第五十三條) 有罪破産

二三四

難ナルハ實際上免レサル所ナルノミナラス前二條ノ所爲ハ破産宣告以前ハ勿論支拂停止以前ニ係ルモノト雖モ尙ホ之ヲ罰ス可キモノニシテ未タ全ク他人ノ看守ニ係ラサル場合アルヲ以テ該刑法ハ常ニ之ヲ適用スルコトヲ得ヘキモノニ非ス是實ニ別段ノ法律ナキ能ハサル所ナリ是ヲ以テ佛國其他ノ商法ニ於テハ此ノ如キ場合ヲ豫想シ是等ノ犯者ヲ以テ特ニ竊盜ノ罪アルモノトスルトノ明文ヲ掲ケ以テ之ヲ刑法ノ例外ニ置キタリ

第五十三條 債權者集會ニ於ケル議決ニ關シ債權者ニ賄賂ヲ爲シタルトキハ其雙方ヲ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

〔義解〕 本條ニ謂フ所ノ賄賂ヲ受クル者ハ必ス債權者ニ限ルト雖モ其之ヲ與フル者ハ固ヨリ何人タルヲ問フコトナク唯其目的カ債權者集會ニ於ケル議決ニ關スルヲ必要トスルナリ而シテ双方トハ之ヲ與ヘタル者ト受ケタル者トヲ謂フ故ニ或ル場合ニ依リテハ破産者自身ハ却

テ處罰ヲ受クルニ至ラサルコトアル可シ其他本條ノ意義ニ付テハ別ニ説明ヲ要スルモノナシ唯爰ニ注意ス可キハ本條ノ規定ニ依リテ處罰ヲ受ケタル者アルニ於テハ該債權者集會ニ於テ爲シタル議決ハ普通ノ規則ニ從ヒ自ラ無効タルニ至ル可キコト是ナリ佛法ノ如キハ明文ヲ以テ特ニ其無効タル旨ヲ定ムルト雖モ本法ニ於テハ蓋之ヲ專理ノ當然ナル結果ニシテ特ニ明文ヲ存スルノ必要ナシトシ唯之ヲ省畧セシニ過キサルナラン

第十章 破産ヨリ生スル身上ノ結果

第五十四條 破産宣告ヲ受ケタル債務者又ハ破産シタル會社ノ無限責任社員ハ復權ヲ得ルニ至ルマテハ取引所ニ立入ルコト仲立人ト爲リ合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社ノ取締役ト爲ルコト清算人破産管財人若クハ商事代人ノ職ヲ執ルコト商業會議所ノ會員ト爲ルコト其他商業上ノ榮譽職ニ就クコトヲ得ス

〔義解〕 破産ノ宣告ヲ受ケタル者ハ當ニ財産ノ剝奪ヲ受クルノミナラ

(第五十四條) 破産ヨリ生スル身上ノ結果

二三五

ス併セテ能力ノ幾分ヲ減殺セラレ、モノナリ所謂能力トハ公權上及ヒ私權上ノ能力ニシテ例ヘハ議員トナリ代言人トナリ又ハ證人トナルヲ得サルカ如キハ則チ公權ノ減殺ニ屬スルモノナリ然レモ凡ソ公權ノ制限ニ付テハ他ノ法律ヲ以テ別ニ之ヲ規定スルモノアルカ故ニ本條ニ於テハ主トシテ私權上ニ屬スルモノ殊ニ商事ニ關スル權利ニ幾分ノ制限ヲ加ヘタルニ過キサルナリ

破産者カ本條ノ權利ヲ行フコトヲ得サルハ唯其復權ヲ得ル迄ノ間ニ在リ爰ニ復權ナル方法ヲ設ケタル所以ハ破産者ヲシテ致々汲々勉メテ怠タラス速カニ其負債ヲ完済シ以テ之カ汚名ヲ雪カシメフコトヲ獎勵スルノ目的ニ出ツルモノナリ但復權ヲ得ルノ手續ニ付テハ次條以下ニ於テ順次之ヲ規定ス

本條ニ列記シタル專業ハ商事上ニ在テハ何レモ信用ヲ主トスルコト最モ大ナルモノナリ然ルニ現ニ商業上ノ信用ヲ害シ且其汚名ヲ流布シタル破産者ヲシテ此ノ如キ專業ニ從事セシムルコトヲ許ストセハ遂ニ貴重ナル事業其者ノ信用ヲ失フニ至ル可シ例ヘハ仲立人ノ行爲ハ總テ公ノ信用アルモノニシテ(第四百九條)且其信用アル所以ノモノハ仲立人タルヲ得ルハ其聲聞ニ瑕瑾ナキ者ニ限ルニ因ルナリ(第四百二條)然ルニ此ノ如キ破産者ヨリトモ尙ホ克ク仲立人ト成ルコトヲ得ルモノトセハ其極途ニ仲立人ノ行爲ヲ信任スルヲ得サルニ至ル可シ其他破産者ニシテ會社ノ取締役タルニ於テハ爲メニ該會社ヲ信用スルヲ得サルカ如キ當然免ルヲ得サルノ不都合アルノミナラス抑信用ヲ喪失セシ彼カ如キ者ヲシテ依然此等ノ榮譽ヲ有セシムルハ蓋會社ノ許ス可キ所ニ非サルナリ

其他ノ商業上ノ榮譽職トハ例ヘハ各商業部類ニ付キ設ケタル組合ノ

頭取又ハ取締役ノ類ヲ謂フナリ

舊法ニ於テハ會社ノ取締役ニ對シテモ本條ノ制裁ヲ加フ可キ規定ナリシト雖モ是頗ル苛酷ニ失スルノ恐アルノミナラス或ハ取締役ニシテ全ク破産ノ原因ニ關係ナキ場合アルモ尙ホ之ヲ同一ニ處分ス可キ不都合ヲ免レズ何トナシテハ取締役カ株主總會ノ議決ヲ遵奉シタル結果ヨリシテ自然損失ヲ招キタル場合ナシトセス加之取締役ハ一年乃至三年(第百八十五條)ニシテ改選セラル、ヲ常トスルカ故ニ或ハ上任ノ翌日直チニ會社ノ破産ス可キ場合ナキヲ保シ難キヲ以テナリ是今日本條ニ於テ取締役ナル文字ノ現存ナキ所以ナリ

第千五十五條 復權ヲ得ルニハ協諾契約ノ調ヒタルト否トヲ問ハス破産者カ元債利息及ヒ費用ノ全額ヲ債權者總員ニ辨償シタルコト及所存ノ知レサル爲メ未タ辨償ヲ受ケサル債權者ニ全額ヲ辨償スル準備及ヒ資カアルコトヲ證明ス可シ

復權ノ申立ニハ債權者ノ受取證其他必要ナル證據物ヲ添フ可シ然レトモ協諾契約ノ場合ニ在テハ第一項ノ證明ヲ爲スコト無クシテ取引所ニ立入ルコトヲ得又會社ニ付キ協諾契約ノ調ヒタルトキハ無限責任社員ハ亦其證明ヲ要セスシテ會社ヲ纏綴スルコトヲ得

〔義解〕 本條第一項ハ復權ヲ得ルニハ破産者カ總債權者ニ對シテ負債ノ全額ヲ辨償シタルコト等ヲ必要トスト云フニ在リテ特ニ注意ス可キハ協諾契約ノ調ヒタルト否トヲ問ハストノ一句是ナリ夫レ協諾契約ノ調フタル場合ニハ破産者カ其契約ヲ以テ定メタル割合ノ金額ヲ支拂フトキハ法律上最早義務ノ殘存スルモノアルニ非スト雖モ抑協諾契約ハ所謂債權者ノ多數ヲ以テ決定シタルモノニテ會員ノ一致ニ出タルニアラス則チ明ニ少數債權者ノ意思ニ背反シタル契約タルノミナラス多數債權者ト雖モ固ヨリ義務ヲ免除スルノ意思ニ非サルハ第千三十條ニ於テ既ニ説明セシ所ノ如シ故ニ債務者ニ在テハ道德上

現ニ盡ス可キ義務ノ殘存スルモノナレハ苟モ汚名ヲ雪キ以テ復權ヲ得ントスルニ於テハ實ニ法律上ノ義務ニ止マラス右ノ如キ道德上ノ義務ニ付テモ亦完ク之ヲ盡了セサル可カラサルナリ但本條ニ謂フ所ノ辨償トハ時効ニ依リテ義務ノ消滅シタル如キ法律上辨償ト看做ス可キ場合ノ如キハ總テ之ヲ取除キタルモノナリ

又間接ナル辨償即チ代位辨償(民法財産編第百七十九條以下)相殺(同第百十條以下)又ハ混同(同第百三條以下)ノ場合ニ於テモ本條ニ謂フ所ノ辨償ニ適ス可キモノタルハ敢テ疑フ所ナシト雖モ合意上ノ免除ニ至テハ事實上ノ辨償ニ非サルカ故ニ或論者ハ之ニ因リテ復權ヲ得ヘキモノニ非サル旨ヲ論セリ(ロイスレル氏草案第百九條註釋及ヒ)然レハ此說タル余ノ輒ク同意スル能サル所ナルヲ以テ別ニ論說欄内ニ於テ聊カ之ヲ論述スル所アル可シ

利息及ヒ費用中ニハ第九百八十九條及ヒ第一千三十三條ニ依リ財團ニ對シテ請求スルコトヲ得サリシモノモ尙ホ之ヲ包含スルナリ

本條第一項ニ於テハ協諧契約ノ調ヒタルノミニテハ未タ復權ヲ得ルコト能ハサル旨ヲ明示シ而シテ前條ニ依レハ復權ヲ得ルニ至ル迄ハ私權上種々ノ制限ヲ付セラルヘキモノナルカ故ニ本條第三項ニ於テハ聊カ之カ例外ヲ設ク則チ協諧契約ノ調ヒタル場合ニ在テハ右制限ノ内取引所ニ立入ルノ權利ノミハ之ヲ行フヲ得ヘキモノトスルナリ

又各會社ハ破産ニ依リテ解散ス可キモノナリ(第百三十一條第三號及ヒ民法財産取得編)ト雖モ此場合ニ限リ依然會社ヲ繼續スルコトヲ得ヘキモノトス是蓋破産者ヲシテ成ル可ク速ニ資産ヲ有セシメ以テ其復權ヲ得セシメシメコトヲ希望シタルニ外ナラサルナリ

〔論說〕 合意上ノ免除ハ唯其義務ノ消滅シタルノミニシテ所謂事實上

ノ辨償ニ非ス而シテ此復權ヲ得ルノ方法ヲ以テ法律上特ニ辨償ニノ
 ミ限リタル所以ノモノハ全部ノ辨償ハ公安ヲ保ツノ條件ニシテ之ヲ
 爲サハル免債ニ付テハ何等ノ方法ヲ以テスルモ之ヲ補フテ得ヘカ
 ラスト云フニ在リ此説タル歐洲ニ在テモ既ニ學者ノ唱道スル所ニシ
 テ「ロイスレル」氏ノ基ク所亦蓋此理由ニ外ナラサル可シ果テ然ラハ「ロ
 イスレル」氏ノ之ヲ唱ヒ木下氏ノ之ニ和スル固ヨリ一理ナキニ非スト
 雖モ余ノ見ル所ニ依レハ此説タル蓋之ヲ苛酷ニ失シタルモノト謂ハ
 サルヲ得ス否寧ロ無用ノ制限ナリト謂ハサルヲ得サルナリ夫レ債權
 者ハ自ラ債務ヲ釋放スルノ權利アルヲ以テ何人ト雖モ強テ之カ釋放
 ヲ妨クルコトヲ得サル可シ故ニ若シ之ヲ釋放シタル場合ニ於テ債務
 者ヨリ故サラニ提供ヲ試ムルトモ債權者ニ於テ其收受ヲ肯セサラン
 ニハ債務者タル者如何ニシテ辨償ヲ爲スコトヲ得ルヤ假ニ實物提供

ノ規定ニ從ヒ之ヲ供託所ニ寄託スルモノトセシ歟既ニ債權者ノ受ク
 ルコトヲ欲セサルモノナレハ遂ニ其供託ノ結果ヲ見ルヲ得サル可キ
 ナリ天下豈ニ此ノ如キ利益ノ供託ヲ許ス可キモノナランヤ加之債權
 者ニシテ破産者ノ復權ヲ妨ケサランコトヲ欲セハ其證書ニ於テ故サ
 ラニ釋放ノ旨ヲ明示スルコトヲ爲サス則チ之ヲ完全ナル受取證書ト
 ナスヲ得可シ果シテ然ラハ合意上ノ免除ヲ以テ復權ヲ得ルヲ能ハサ
 ルモノトスルモ實際上決シテ之ヲ制止スルヲ得サル可キナリ之ヲ
 要スルニ本條ノ旨趣ハ復權ヲ得セシムルハ債權者ノ受クタル損害ヲ
 賠償シタル後ニ在ルヲ必要トスルニ過キサルヲ以テ債權者ニ於テ明
 ニ其債權ヲ拋棄シタルニ於テハ即チ損害ヲ賠償シタルモノト見做シ
 以テ復權ヲ得セシム可キコト蓋大ニ事理ニ適合シタルモノト謂フ可
 シ世人動モスレハ文字ニ拘泥シ以テ眞意ヲ誤ル者未タ必スシモ之ヲ

シトセス況ヤ既ニ「ロイス」氏等ノ反對説アルオヤ依テ爰ニ一言ヲ付シ以テ讀者ノ參考ニ供スト云爾

第五十六條 復権ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ異議アル者ヲシテ二个月ノ期間ニ異議ヲ起サシメンカ爲メ裁判所ノ揭示場ト取引所トニ其旨ヲ揭示シ且裁判所ノ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ捜査ヲ爲サシメンカ爲メ之ヲ檢事ニ通知ス可シ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復権ノ申立ヲ許可スルト否トヲ決定ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得確定シタル決定ハ之ヲ公告ス

棄却セラレタル申立ハ一年ノ満了前ニハ再ヒ之ヲ爲スコトヲ得ス

〔義解〕 本條第一項ノ規定ハ破産者カ前條ニ從ヒ爲シタル證明ノ正實ナルヤ否ヤ及ヒ第五十八條ノ規定ニ反セサルヤ否ヤヲ取調フ可キ方法ニ屬スルモノニシテ異議アル者トハ實ニ債權者ノミナラス一般人民ニシテ苟モ該破産ニ關係ヲ有スル者ハ總テ之ヲ包含スルモノトス是蓋復権ヲ得セシムルニハ破産者ノ清淨潔白ニシテ毫モ汚點ノ存

スルナキヲ希望スルニ因ルナリ

決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ權アル者ハ單ニ檢事ト破産者トノミニシテ異議申立人ニ在テハ固ヨリ此權ヲ有セサルモノトス何トナレハ異議申立人ハ主トシテ金錢上ノ利害ヲ有スルノミニシテ破産者ノ復権ヲ得ルト否トニ付テハ毫モ關係ヲ有ス可キモノニ非サレハナリ現ニ白法ニ於テハ債權者ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルト雖モ其復権ニ關スル訴訟手續ニ參與スルコトヲ得サル旨ヲ明示セリ而シテ其理由タル則チ右ニ謂フ所ニ外ナラサルナリ

本條末項ニ於テ一旦棄却セラレタル復権ノ申立ハ一年ヲ過クルニ非サレハ更ニ其申立ヲ爲スコトヲ得ストル所以ハ破産者カ不實若クハ輕忽ナル申立ヲ爲ストテ豫防スルニ在ルナリ而シテ草案ニ於テハ此期限ヲ以テ三年トナセシト雖モ是或ハ長キニ過キ却テ債務者

カ速ニ債務ヲ完済セントスル企望ヲ妨クルニ至ルノ恐ナシトセス現ニ白國ニテモ其舊法ニ於テハ一旦棄却セラレタル復権ノ申立ハ終世之ヲ再ヒスルコトヲ得サル規定ナリシト雖モ新法ニ於テハ之ヲ改正シテ一个年トナシ則チ本條ノ期限ト同一ナルニ至レリ

第千五十七條 復権ハ債務者ノ死亡後ト雖モ之ヲ許ス

〔義解〕 本條ハ破産者ノ子女及ヒ其他ノ者ヲシテ道德及ヒ名譽ヲ重シ其父又ハ其配偶者等ノ被フリタル汚辱ヲ洗滌セシメノコトヲ獎勵スルカ爲メニ設ケタルモノニシテ其意義ニ付テハ別ニ説明ヲ要スルモノナシ

第千五十八條 復権ハ詐欺破産ノ爲メニ判決ヲ受ケタル破産者又ハ重罪、輕罪ノ爲メニ剝奪公權若クハ停止公權ヲ受ケテ其時間中ニ在ル破産者ニハ之ヲ許サス
過怠破産ノ場合ニ在テハ復権ハ刑ノ満期ト爲リ又ハ恩赦ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ許サス

〔義解〕 本條ノ規定ハ破産者カ自己ノ行狀ノ爲メニ恩典ヲ受クルコトヲ得サル場合ニシテ則チ自ラ招キタル結果ナリト謂ハサルヲ得サルナリ

本條第一項ノ場合ハ勿論第二項ノ場合ニ於テモ有罪破産ノ刑カ時効ヲ生シタリトノ理由ヲ以テ復権ヲ得ヘキモノニ非ス何トナレハ本條中別ニ此ノ如キ例外ヲ掲ケサルヲ以テナリ

剝奪公權トハ刑法第三十一條ニ列記シタル國民ノ特權其他數種ノ公權ヲ剝奪セラル、ヲ謂フ而シテ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ終身公權ヲ剝奪セラレ輕罪ノ刑ニ付テハ或期限内公權ヲ行フコトヲ停止セラル、モノナリ則チ本條ニ依レハ右ノ如キ公權ヲ剝奪セラレ又ハ之ヲ停止セラレタル期間ニ在テハ併テ私權ヲ行フコトヲ得サルモノトナルナリ

第十一章 支拂猶豫

第千五十九條 商ヲ爲スニ當リ自己ノ過失ナクシテ一時其支拂ヲ中止セサルコトヲ得サルニ至リタル者ハ商事上ノ債權者ノ過半數ノ承諾ヲ得テ其營業所若クハ住所ノ裁判所ヨリ右債權者ニ對スル義務ニ付キ一箇年以内ノ支拂猶豫ヲ受クルコトヲ得

〔義解〕 支拂猶豫トハ讀テ字ノ如ク債務者カ債權者ニ對シテ爲ス可キ支拂ノ猶豫ヲ受クル方法ヲ謂フナリ夫レ商ヲ爲スニ當リ支拂ヲ停止スル者ハ第九百七十八條ニ依リ破産者トシテ宣告セラレ可シト雖モ自己ノ過失ナクシテ一時支拂ヲ停止セサルヲ得サルニ至リタル債務者ヲ以テ直チニ之ヲ破産者トナシ爲メニ破産ヨリ生スル嚴酷ナル制裁ヲ受ケシムルハ少ク妥當ナラサルモノアルノミナラス破産手續ノ結果ニ依リ債權者カ受クル所ノ辨償ハ通例多額ナルヲ得ス且其配當ノ遲延スルカ爲メ若シ別ニ然ル可キ方法アルニ於テハ宜ク之ニ從フ

ヲ便益ナリトス是レ爰ニ此支拂猶豫ノ規定アルヲ見ルニ至リタル所以ナリ而シテ佛國及ヒ獨國ノ如キハ此支拂猶豫ノ制ヲ以テ債權者ノ權利ヲ害シ不正ナル債務者ヲシテ詐欺ヲ行ハシムルノ媒介ナリトシ終ニ之ヲ廢止セシト雖モ其他ノ歐洲大陸諸國及ヒ英國ニ於テハ現ニ之ヲ採用シ殊ニ白國ニ於テハ千八百五十一年ノ法律ヲ制定スルニ當リ支拂猶豫ノ制ヲ保持ス可キヤ否ヤニ付キ數日ノ討議ヲ經タル末終ニ之ヲ保持セシモノニシテ而シテ其理由ハ支拂猶豫ハ債務者ノ利益ヨリスルモ債權者ノ利益ヨリスルモ共ニ之ヲ與フルヲ適當ナリト認メタルニ因ルナリ

支拂猶豫ヲ得タル結果ニ付テハ第千六十三條ニ於テ之ヲ規定ス而シテ此支拂猶豫ヲ得ルニ付テハ本條ニ記載スル如ク左ノ條件アルヲ必要トスルナリ

第一 商ヲ爲スニ當リタルコト 此點ニ付テハ第九百七十八條ニ於テ説明セシ所ト同一ニシテ則チ其負債ハ全ク民事上ヨリ生シタルニアラサルヲ及ヒ其負債者ハ商人タルト非商人タルトヲ論セサルコト是ナリ

第二 自己ノ過失ナキコト 例ヘハ他人ノ破産ノ爲メニ自ラ巨額ノ損失ヲ被フリ又ハ火災盜難其他不慮ノ災害ニ罹リ俄ニ營業ヲ中絶セサルヲ得サルニ至リタルカ如キヲ謂フ故ニ有罪破産ノ原由アル場合ハ勿論苟モ破産者ノ過失アル場合ニ於テハ固ヨリ支拂猶豫ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ

第三 商事上ノ債權者ノ過半数ノ承諾ヲ得ルコト 商事上ノ債權者トアルハ右第一號ニ於テ説明セシ所ニ同シ故ニ民事上ノ債權者ニ對シテハ本章ノ規定ニ拘ハラズ其請求ニ對シテ之カ支拂ヲ

爲サ、ルヲ得ス若シ之ニ應スルコトヲ得サルニ於テハ民事訴訟法ニ從ヒ直チニ強制執行ヲ受クルコトヲ免ンサルナリ

又債權者ノ過半数ト云フトキハ單ニ人員ノ過半数ノミヲ以テ十分ナリトスルカ如シト雖モ此場合ニ在テモ亦固ヨリ人員及ヒ債權ノ過半数タルヲ必要トスルナリ(第一千六條)

右ノ外裁判所ノ認可ヲ必要トスルハ勿論ニシテ其手續ハ第一千六十二條ニ於テ之ヲ規定ス而シテ本條以下ニ掲ケタル裁判所トハ總テ地方裁判所ヲ是謂フナリ(商法施行條例第五十一條)

支拂猶豫ノ期限ヲ一个年以内ニ限リタル所以ハ該期限ノ長キニ過クルトキハ現ニ不同意ナル少數論者ノ權利ヲ害スルノ甚シキモノアルニ因ルナリ

白法ニ於テモ此期限ヲ以テ一个年トナシ而シテ一个年内ニ於テ相當

ノ期間ヲ定ムルハ之ヲ裁判所ノ職權ニ委テリ此ノ如ク法律ニ於テ一
 年内ナル制限ヲ設ケタルハ若シ此制限ナキニ於テハ裁判所ノ職權
 テ以テ當事者間ノ合意ノ効力ヲ傷害スルノ甚シキニ至ル可シトスル
 ニ因ルナリ然レモ本條ニ於テハ此制限ヲ定ムルコトヲ以テ之ヲ裁判
 所ニ委ヌルトノ明文アルナク之ニ反シ次條ニ於テハ辨償ヲ爲シ得ル
 期間ヲ申立ツルヲ以テ之ヲ債務者ノ義務トナシタルカ故ニ則チ此期
 間ハ債務者ノ申出ル所ニ從ヒ之ヲ債權者ノ會議ニ付ス可キモノニシ
 テ裁判所ニ於テハ唯其議決ヲ認可スルト否トヲ決定スルニ過キサル
 可シ之ヲ約言セハ裁判所ハ職權ヲ以テ自ラ該期間ヲ伸縮スルヲ得サ
 ルモノナリ

第六十條 支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルコトヲ要ス

- 第一 支拂中止ノ事由ノ完全ナル明示
- 第二 貸借對照表、財産目錄及住所ト債權額トヲ明示シタル債權

者名簿

第三 債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノノ完全ナル辨償ヲ爲シ
 得ル方法、期間及ヒ此カ爲メ供スルコトヲ得ル擔保ノ證明

右申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ
 且債權者ノ集會期日ヲ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコ
 トヲ要ス債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集ヲ受ク

支拂猶豫ハ裁判所ヨリ假ニ之ヲ許可スルコトヲ得

〔義解〕 本條第一號乃至第三號ノ條件ヲ掲クシムル所以ノモノハ蓋左
 ノ事項ヲ調査スルノ必要アルニ因ルナリ

第一 支拂停止ヲ爲シタルハ債務者自己ノ過失ニ原由スルニ非サ
 ルヤ否ヤ

第二 猶豫ヲ與フルニ於テハ果シテ辨償スルヲ得ヘキ資力アルヤ
 否ヤ

第三 辨償ス可キ方法及ヒ期間ノ正當ナルヤ否ヤ殊ニ供スル所ノ
 (第六十條) 支拂猶豫

擔保ハ果シテ確實ナルヤ否ヤ

本條末項ニ規定スル如ク裁判所ニ與フルニ支拂ノ假猶豫ヲ許可スル權利ヲ以テスル所以ノモノハ若シ之ヲ與ヘサルニ於テハ現ニ支拂猶豫ノ申立アリタルニ拘ハラス一面ハ支拂停止ノ故ヲ以テ破産宣告ノ手續ヲ行ハサルヲ得サルニ因ルナリ

假猶豫ヲ與ヘタルニ因リテ生スル効力ニ付テハ本法中別ニ之ヲ定ムルモノナシ然レモ余ノ見ル處ニ依レハ其効力ハ則チ第六十三條ニ規定シタル確定猶豫ヲ與ヘタルトキニ異ナルコトナク殊ニ其業務ノ施行ニ付キ主任判事ノ監督ヲ受クルカ如キハ蓋最モ必要ノ事タル可キナリ

第六十一條 集會期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セテレタル主任判事ノ上席ヲ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ノ申立ニ付キ辯論ヲ爲ス其申立ヲ承諾スルニハ第六十六條ニ掲ケタル過半数ヲ要ス其辯

論及ヒ議決ニ付テハ調査ヲ作ル可シ

〔義解〕 前條ニ於テ債務者ヨリ辨償ヲ爲シ得ル方法ヲ申立ツ可キ旨ヲ規定セリ而シテ讀者ハ此方法ノ大ニ本條ノ議決ニ影響ヲ及ホス可キモノタルヲ察セサル可ラス例ヘハ數十名ノ債權者アル場合ニ於テ本條ニ定ムル所ノ過半数ニ足ル可キ債權者ニ對シテノミ利益ナル辨償方法ヲ設クルニ於テハ輒スク支拂猶豫ノ申立ヲ承諾セラル、ノ結果ヲ生ス可キカ如シ故ニ白法ニ於テハ支拂猶豫ヲ請求スル時ニ現存スル各債權ノ辨償ハ支拂猶豫ノ期限中其債權ノ割合ニ從フテノミ之ヲ爲ス可キモノトスト云ヒ以テ豫メ此ノ如キ弊害ヲ防ケリ

第六十二條 裁判所ハ承諾ヲ得タル支拂猶豫ノ認否ニ付キ主任判事ノ演述ヲ聽キテ決定ヲ爲ス此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

支拂猶豫ハ申立ニ因リテ前數條ノ手續ニ從ヒ一回ニ限り之ヲ延長スルコトヲ得然レトモ其期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

〔義解〕 支拂猶豫ノ申立ニシテ債權者集會ノ承諾ヲ得サルトキハ其申立ハ勿論消滅ニ歸シ債務者ハ直チニ破産ノ宣告ヲ受ク可キモノナルコトハ第六十四條ニ規定スル所ナリ故ニ本條第一項ハ之カ承諾ヲ得タル場合ニ於テ裁判所カ其認否ヲ決定ス可キ規定ニ係ルモノナリ而シテ此決定ヲ爲スニ付テハ主トシテ第六十條ノ事實ヲ調査セサル可ラス是特ニ主任判事ノ演述ヲ聽クコトヲ必要トスル所以ナリ本條第二項ニ從ヒ第二回ノ猶豫ヲ與フルハ之ヲ與ヘスシテ直チニ破産處分ヲ行フニ比スレハ債務者及ヒ債權者ニ對シテ共ニ利益タル可シト信ス可キ場合ニ存スルモノナリ白法ニ於テハ第二回ノ猶豫ヲ與フルハ前ノ猶豫期間中ニ在テ總債務額ノ百分ノ六十ヲ辨償シタル場合ニ限ルモノトセリ本邦ニ在テモ實際上右等ノ制限ヲ設クルハ蓋最も適當ノ事タル可シ

第二回ノ期間ニ於テモ一箇年ノ猶豫アルヲ以テ前後ヲ通シテ滿二箇年ノ猶豫ヲ受クルコトヲ得ヘキモノナリ然ルニ第一回ニ於テ僅ニ五個月ノ猶豫ヲ得タルノミナルニ於テハ第二回ニ至リ假令ト滿一箇年ノ猶豫ヲ受クルモ僅ニ一箇年五個月ニ過キス故ニ第二回ニ於テ其殘七個月ヲ利用シ以テ一年七個月ノ猶豫ヲ受クルコトヲ得ヘキカ如シ然レモ特ニ一箇年ヲ除ユルコトヲ得ストアルヲ以テ假令第一回ノ期日ニハ現ニ餘日ノ存シタルニ拘ハラズ第二回ニ於テ之ヲ流出スルヲ得サルモノトス

第六十三條 債務者有効ナル支拂猶豫ヲ得タルトキハ猶豫期間中其以前ニ取結ヒール商取引ヨリ生スル債權ノ爲メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受クルコト無シ但猶豫契約履行及ヒ業務ノ施行ニ關シテハ主任判事ノ監督ヲ受ク
債務者ノ保證人及ヒ共同債務者ノ義務ハ右猶豫ノ爲メニ變更スルコト無シ

(第六十三條) 支拂猶豫

〔義解〕 本條ハ支拂猶豫ヲ得タル以後ノ結果ニ關スル規定ニシテ、有効ナルトハ支拂猶豫ノ議決ニ對シ裁判所ノ認可ヲ得タル後抗告期間七日内ニ抗告ヲ爲サル場合又ハ其爲シタル抗告ニ對シテ上級裁判所ノ決定ヲ受ケ之カ爲メ該議決ノ確定シタル場合ヲ謂フナリ

支拂猶豫ノ効力ニ依リ強制執行又ハ破産宣告ヲ免ル、コトヲ得ルハ其債權ノ商取引上ヨリ生シタルモノニシテ且其商取引ハ支拂猶豫以前ノ取引ニ係ルモノニ限ル故ニ民事上ノ負債殊ニ租稅若クハ養料ノ支拂又ハ支拂猶豫決定後ニ取結ヒタル商取引ニ依リ負擔シタル債務ノ支拂ニ付テハ固ヨリ該決定ノ効力ヲ及ホスコトヲ得サルモノトス

猶豫契約ノ履行ニ關シテ主任判事ノ監督ヲ受クルハ協諧契約ノ履行ニ付キ破産主任官ノ監督ヲ受クルニ異ナルコトナシ(第一千三條四)而シテ此契約ヲ履行セサル場合ニ在テハ次條ノ規定ニ從ヒ直チニ破産手續ノ

開始ニ至ル可キモノナリ

業務施行ニ關スル監督ニ付テハ主任判事ハ如何ナル職權ヲ有シ如何ナル方法ニ依ル可キヤ余ハ今爰ニ之ヲ明言スルヲ得ス然レモ其要スル所ハ此猶豫期間ニ在テ債務者ヲシテ債權者ヲ害ス可キ手段ヲハ行シメサルヲ注意スルニ外ナラサル可シ白法ニ於テハ支拂猶豫ノ場合ニ在テハ主任判事ノ外特ニ一名若クハ數名ノ監視委員ヲ任命シ之ヲシテ支拂猶豫ノ期間債務者ノ行爲ヲ監督セシム可キモノトナシ而シテ此期間中債務者カ動産不動産ヲ讓渡シ質入シ又ハ抵當トナシ又ハ訴訟若クハ和解ヲ爲シ又ハ金額ヲ借入レ又ハ一切ノ支拂及ヒ管理ヲ爲スニ付テハ總テ監視委員ノ許諾ヲ得サル可ラサルモノトセリ(白商第六條三)是或ハ煩雜ニ失スルノ恐ナキニ非スト雖モ眞ニ十分ナル監督ヲ行ハシメントスルニ於テハ蓋此ノ如キ規定ノ設ケナキヲ得サル可キ

本條末項ニ依レハ債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ義務ハ債務者カ
 支拂猶豫ヲ得タルカ爲メ毫モ變更ス可キモノニ非サルカ故ニ債務者
 ハ他ノ共同義務者又ハ保證人ニ對シテハ右ノ猶豫期間内タルニ拘ハ
 ラス直チニ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス然レモ保證人ハ民
 法ノ規定(擔保編第十條以下)ニ從ヒ豫メ債務者ノ財産ヲ檢索シテ之ヲ賣ラシ
 ムルコトヲ債權者ニ要求スルコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ若シ保證
 人ニ於テ從來檢索ノ權利ヲ有シ且之ヲ拋棄セサルニ於テハ債務者カ
 受ケタル支拂猶豫期間内ハ保證人ニ在テモ亦同シク請求ヲ免ル、ヲ
 得ヘシ何トナレハ若シ此變例ナキニ於テハ保證人カ契約取結ノ時ニ
 於テ信憑トナシタル所ノ檢索ノ權利ハ本條ノ爲メニ全ク傷害セラル
 、ニ至ル可キヲ以テナリ但或ル論者ハ商事上ノ保證義務ニ付テハ之

ヲ民法上ノ保證義務ト別異シ則チ保證人タリトモ債務者ト共ニ連帶
 ノ義務ヲ盡サ、ルヲ得サルモノトセリ而シテ余ノ如キモ最初此說ニ
 左袒セシ所ナリキ果シ此說ノ如クナルニ於テハ前段ノ説明ハ全ク無
 用ニ屬ス可シト雖モ其後倍々之ヲ考フルニ前說ハ蓋第二百八十八條
 ヲ誤解スルノ致ス所ニシテ同條ニ於テ保證義務ノ場合ニ於テモ云々
 トアルハ保證人ハ債務者ト連帶義務ヲ有スト云フノ意ニ非スシテ其
 連帶義務ヲ有スルハ全ク保證人間ニノミ存スルヲ謂ヘルモノナリ

第千六十四條 支拂猶豫ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所之ヲ棄却シタルト
 キ又ハ後日ニ至リ債務者ノ詐欺若クハ不正ノ爲メ若クハ法律上ノ條
 件ノ缺クルカ爲メ之ヲ廢止シタルトキ又ハ債務者ニ於テ其猶豫契約
 ヲ履行セザルトキ又ハ其猶豫期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者
 ニ對シテ強制執行ヲ爲ストキハ直チニ債務者ニ對シテ破産手續ヲ開始ス
 此場合ニ於テハ支拂猶豫申立ノ日附ヲ以テ支拂停止ノ日ト定ム

〔義解〕 本條ニ從ヒ破産手續ヲ開始ス可キハ則チ左ノ四箇ノ場合ナリ

(第千六十四條) 支拂猶豫

トス

第一 債權者集會ニ於テ支拂猶豫ノ承諾ヲ得ス若クハ裁判所カ之ヲ認可セサルトキ

第二 後日ニ至リ債務者ノ詐欺若クハ不正ノ爲メ若クハ法律上ノ條件ノ缺クルカ爲メ支拂猶豫ヲ廢止シタルトキ 詐欺若クハ不正ノ爲メトハ例ヘハ支拂猶豫ノ決議ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヲ容易ナラシムル爲メ故意ヲ以テ債權者ノ人員又ハ其債務額ヲ藏匿シ又ハ虛偽若クハ過實ノ負債ヲ掲ケ該債權者ヲシテ債權者集會ニ參加セシメタル類ヲ謂ヒ法律上ノ條件ヲ缺クトハ例ヘハ第一千六十條ノ規定ニ依レハ債權者ハ集會ノ爲メ各別ニ招集ヲ受ク可キモノナルニ單ニ公告ヲ爲シタルノミニテ右特別招集ノ手續ヲ行ハサリシカ爲メ正當ナル債權者ノ出席スルヲ得サリシ場合

ノ類ナル可シ本條ニ適合スル所ノ白國商法ニ於テハ明ニ第何條ノ規定ニ違背シタルトキト云ヒ曾テ例示セシ如ク各債權者ニ對シテ平等ニ辨濟ス可キ規定及ヒ或ル行爲ニ付キ監視委員ノ許諾ヲ受ク可キ規定ニ違背シタル場合タルヲ示セリ然レモ本條ニ於テハ漠然法律上ノ條件トアルカ故ニ其範圍ハ少クトモ本章ノ全部ニ及フモノト知ル可シ

第三 債務者ニ於テ其猶豫契約ヲ履行セサルトキ

第四 猶豫期間中債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ヨリ強制執行ヲ爲ストキ 既ニ支拂猶豫ヲ得タルニ拘ハラズ此ノ如キ強制執行ヲ受クルコトアルハ所謂支拂猶豫ハ商事上ノ債權ニノミ對スルニ因ルナリ又商事上ノ債權ト雖モ議決後ニ生スルモノニ付テハ該猶豫ノ効力ヲ及ホスコトヲ得サルカ故ニ本號ニ於テハ「強制執

行ヲ爲ストキトアル外別ニ他ノ債權者ニ對シテ支拂ヲ停止スル
トキヲモ包含スルモノト解ス可キナリ

右第二乃至第四ノ場合ニ在テハ債權者ノ申立ニ依リ又ハ裁判所ノ職
權ヲ以テ支拂猶豫ノ決定ヲ取消シ第九百七十八條以下ノ規定ニ從ヒ
直チニ破産手續ヲ開始ス可キモノナリ

支拂停止ノ日ヲ以テ支拂猶豫申立ノ日トナスト又ハ破産手續開始ノ
日トナストニ付テハ第九百九十條及ヒ第九百九十一條等ヲ適用スル
ニ當リ大ニ其結果ヲ異ニスルモノアルナリ例ヘハ支拂停止前十日内
ニ破産者カ其財産中ヨリ無償ノ利益ヲ或人ニ與フル權利行爲ハ財團
ニ對シテハ當然無効トストアルヲ以テ各債權者ハ支拂停止ノ日附如
何ニ依リ利害ノ關スル所常ニ最モ大ナルモノアルカ如シ

破産法正義畢

破産法正義附錄

我商法ハ獨逸國人ロイスレル氏ノ草案ニ基キ制定セラレタルモノ
ニシテ其草案ハ則チ獨逸文ヲ以テ成リ而シテ之カ譯文ト共ニ早ク既
ニ刊行セル所ナリ故ニ讀者若シ商法ニ付キ疑義ノ生シタル場合ニ
於テ先ツ其草案ニ照シテ之ヲ考究スルトキハ蓋大ニ發明スルニ足
ルモノアル可シ而シテ商法中其實施ニ係ルモノハ會社法手形法及ヒ
破産法等ニ過キスト雖モ之カ全部ノ對照ヲ表示スル亦敢テ無用ノ
業ニ非サル可シ依テ爰ニ商法全部ニ對スル條目對照表ヲ作り以テ
本卷ノ附録トナス焉

本法及ヒ草案ノ正條對照表

破産法正義附錄

破産法正義附録

七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八
七一	二〇三	二〇二	七〇	〇	六九	二八二	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九
八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四
九九	九九	九七	九八	九六	九五	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	〇	八二	八一
一〇五	一〇四	一〇三	一〇二	一〇一	一〇〇	九九	九八	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇
一一三	一一二	一一一	一一〇	一〇九	九四	九三	九二	九一	九〇	一〇七	一〇八	一〇三	一〇二	一〇一	一〇〇
一二一	一二〇	一一九	一一八	一一七	一一六	一一五	一一四	一一三	一一二	一一一	一一〇	一〇九	一〇八	一〇七	一〇六
一九一	一三三	一三〇	一二九	一二八	一二七	一二五	一二四	一二三	一二二	一二一	一一〇	一一八	一一〇	一一七	一一六

三

一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	條
一六	一五	一三	一二	一一	一〇	一	九	八	七	六	五	四	三	一	條
二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	條	
三〇	二九	二七	二五	二六	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	〇	一七	條	
四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	條	
四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	條	
五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	條	
五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	條	

本法草案
本法草案
本法草案
本法草案

二

破産法正統附録

一九三	一九二	一九一	一九〇	一八九	一八八	一八七	一八六	一八五	一八四	一八三	一八二	一八一	一八〇	一七九	一七八
二三四	二三一	二三〇	二二九	二二八	二二七	二二三	二二三	二二四	二二八	二二五	二二三	二二四	二二三	二二二	二二一
二〇九	二〇八	二〇七	二〇六	二〇五	二〇四	二〇三	二〇二	二〇一	二〇〇	一九九	一九八	一九七	一九六	一九五	一九四
二六〇	二五九	二五八	二五七	二五六	二五五	二五四	二四四	二四三	二四〇	二三九	二三八	二三七	二三六	二三五	二三三
二二五	二二四	二二三	二二二	二二一	二二〇	二一九	二一八	二一七	二一六	二一五	二一四	二一三	二一二	二一一	二一〇
二七六	二七五	二七四	二七三	二七二	二七一	二七〇	二六九	二六八	二六七	二六六	二六五	二六四	二六三	二六二	二四七
二四一	二四〇	二三九	二三八	二三七	二三六	二三五	二三四	二三三	二三二	二三一	二三〇	二二九	二二八	二二七	二二六
二九四	二九三	二九〇	二八五	二九二	二八九	二九一	二八九	二八八	〇	二八七	二八六	二八一	二八〇	二七九	二七八

五

本法草案

一三五	一三四	一三三	一三二	一三一	一三〇	一二九	一二八	一二七	一二六	一二五	一二四	一二三	一二二	一二一	一二〇
一五三	一五一	一四九	一四八	一四七	一四六	一四四	一四三	一四二	一四一	一四〇	一三九	一三八	一三六	一三三	一三二
一四九	一四八	一四七	一四六	一四五	一四四	一四三	一四二	一四一	一四〇	一三九	一三八	一三七	一三六	一三五	一三六
一六九	一六九	一六七	一六六	一六三	一六二	一六一	一六〇	一五九	一五八	一五六	一五五	一五四	一五三	一五二	一五四
一六三	一六二	一六一	一六〇	一五九	一五八	一五七	一五六	一五五	一五四	一五三	一五二	一五一	一五〇	一四九	一五〇
一八六	一八五	一八四	一八三	一八二	一八一	一八〇	一七九	一七五	一七六	一七五	一七二	一七一	一七三	一七〇	一七〇
一七七	一七六	一七五	一七四	一七三	一七二	一七一	一七〇	一六九	一六八	一六七	一六六	一六五	一六四	一六三	一六四
二一〇	二〇九	二〇八	二〇四	一九九	一九八	一九七	一九七	一九六	一九五	一九四	一九三	一九一	一九一	一九一	一九一

四

破産法正義附録

四一八	四七九	四三〇	四二〇	四二一	四二二	四二三	四二四	四二五	四二六	四二七	四二八	四二九	四三〇	四三一	四三二	四三三
四七九	四七八	四七九	四八〇	四八一	四八二	四八三	四八四	四八五	四八六	四八七	四八八	四八九	四九〇	四九一	四九二	四九三
四三四	四三五	四三六	四三七	四三八	四三九	四四〇	四四一	四四二	四四三	四四四	四四五	四四六	四四七	四四八	四四九	四五〇
四九三	四九四	四九五	四九六	四九七	四九八	四九九	五〇〇	五〇一	五〇二	五〇三	五〇四	五〇五	五〇六	五〇七	五〇八	五〇九
四五〇	四五二	四五三	四五四	四五五	四五六	四五七	四五八	四五九	四六〇	四六一	四六二	四六三	四六四	四六五	四六六	四六七
五〇九	五一〇	五一一	五一二	五一三	五一四	五一五	五一六	五一七	五一八	五一九	五二〇	五二一	五二二	五二三	五二四	五二五
四六六	四六七	四六八	四六九	四七〇	四七一	四七二	四七三	四七四	四七五	四七六	四七七	四七八	四七九	四八〇	四八一	四八二
五二五	五二六	五二七	五二八	五二九	五三〇	五三一	五三二	五三三	五三四	五三五	五三六	五三七	五三八	五三九	五四〇	五四一

九

本法草案

三六二	三六三	三六四	三六五	三六六	三六七	三六八	三六九	三七〇	三七一	三七二	三七三	三七四	三七五	四二七	四二八	四二九
四二七	四二八	四二九	四三〇	四三一	四三二	四三三	四三四	四三五	四三六	四三七	四三八	四三九	四四〇	四三二	四三三	四三四
三七六	三七七	三七八	三七九	三八〇	三八一	三八二	三八三	三八四	三八五	三八六	三八七	三八八	三八九	四三一	四三二	四三三
四三一	四三二	四三三	四三四	四三五	四三六	四三七	四三八	四三九	四四〇	四四一	四四二	四四三	四四四	四三二	四三三	四三四
三九〇	三九一	三九二	三九三	三九四	三九五	三九六	三九七	三九八	三九九	四〇〇	四〇一	四〇二	四〇三	四三二	四三三	四三四
四四九	四五〇	四五二	四五三	四五四	四五五	四五六	四五七	四五八	四五九	四六〇	四六一	四六二	四六三	四三二	四三三	四三四
四〇四	四〇五	四〇六	四〇七	四〇八	四〇九	四一〇	四一一	四一二	四一三	四一四	四一五	四一六	四一七	四三二	四三三	四三四
四六三	四六四	四六五	四六六	四六七	四六八	四六九	四七〇	四七一	四七二	四七三	四七四	四七五	四七六	四三二	四三三	四三四

八

本法草案
 本法草案
 本法草案
 本法草案

四八二條	四八三	四八四	四八五	四八六	四八七	四八八	四八九	四九〇	四九一	四九二	四九三	四九四	四九五
五四一條	五四二	五四三	五四四	五四五	五四六	五四七	五四八	五四九	五五〇	五五一	五五二	五五三	五五四
四九六條	四九七	四九八	四九九	五〇〇	五〇一	五〇二	五〇三	五〇四	五〇五	五〇六	五〇七	五〇八	五〇九
五五五條	五五六	五五七	五五八	五五九	五六〇	五六一	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八
五一〇條	五一一	五一二	五一三	五一四	五一五	五一六	五一七	五一八	五一九	五二〇	五二一	五二二	五二三
五六九條	五七〇	五七一	五七二	五七三	五七四	五七五	五七六	五七七	五七八	五七九	五八〇	五八一	五八二
五二四條	五二五	五二六	五二七	五二八	五二九	五三〇	五三一	五三二	五三三	五三四	五三五	五三六	五三七
五八三條	五八四	五八五	五八六	五八七	五八八	五八九	五九〇	五九一	五九二	五九三	五九四	五九五	五九六

被産法正義附録

五三八	五三九	五四〇	五四一	五四二	五四三	五四四	五四五	五四六	五四七	五四八	五四九	五五〇	五五一	五五二	五五三
五九八	五九九	六〇〇	六〇一	六〇二	六〇三	六〇四	六〇五	六〇六	六〇七	六〇八	六〇九	六一〇	六一一	六一二	六一三
五五四	五五五	五五六	五五七	五五八	五五九	五六〇	五六一	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九
六一四	六一五	六一六	六一七	六一八	六一九	六二〇	六二一	六二二	六二三	六二四	六二五	六二六	六二七	六二八	六二九
五七〇	五七一	五七二	五七三	五七四	五七五	五七六	五七七	五七八	五七九	五八〇	五八一	五八二	五八三	五八四	五八五
六三一	六三二	六三三	六三四	六三五	六三六	六三七	六三八	六三九	六四〇	六四一	六四二	六四三	六四四	六四五	六四六
五八六	五八七	五八八	五八九	五九〇	五九一	五九二	五九三	五九四	五九五	五九六	五九七	五九八	五九九	六〇〇	六〇一
六四七	六四八	六四九	六五〇	六五一	六五二	六五三	六五四	六五五	六五六	六五七	六五八	六五九	六六〇	六六一	六六二

本法草案
 本法草案
 本法草案
 本法草案

六〇二條	六〇三	六〇四	六〇五	六〇六	六〇七	六〇八	六〇九	六一〇	六一一	六一二	六一三	六一四	六一五
六六三條	六六四	六六五	六六六	六六七	六六八	六六九	六七〇	六七一	六七二	六七三	六七四	六七五	六七六
六一六條	六一七	六一八	六一九	六二〇	六二一	六二二	六二三	六二四	六二五	六二六	六二七	六二八	六二九
六七七條	六七八	六七九	六八〇	六八一	六八二	六八三	六八四	六八五	六八六	六八七	六八八	六八九	六九〇
六三〇條	六三一	六三二	六三三	六三四	六三五	六三六	六三七	六三八	六三九	六四〇	六四一	六四二	六四三
六九一條	六九二	六九三	六九四	六九五	六九六	六九七	六九八	六九九	七〇〇	七〇一	七〇二	七〇三	七〇四
六四四條	六四五	六四六	六四七	六四八	六四九	六五〇	六五一	六五二	六五三	六五四	六五五	六五六	六五七
七〇五條	七〇七	七〇八	七〇九	七一〇	七一	七一二	七一三	七一四	七一五	七一六	七一七	七一八	七一九

破産法正義附録

六五八	六五九	六六〇	六六一	六六二	六六三	六六四	六六五	六六六	六六七	六六八	六六九	六七〇	六七一	六七二	六七三	六七四
七二〇	七二一	七二二	七二三	七二四	七二五	七二六	七二七	七二八	七二九	七三〇	七三一	七三二	七三三	七三四	七三五	七三六
六七四	六七五	六七六	六七七	六七八	六七九	六八〇	六八一	六八二	六八三	六八四	六八五	六八六	六八七	六八八	六八九	七〇〇
七三七	七三八	七三九	七四〇	七四一	七四二	七四三	七四四	七四五	七四六	七四七	七四八	七四九	七五〇	七五一	七五二	七五三
六九〇	六九一	六九二	六九三	六九四	六九五	六九六	六九七	六九八	六九九	七〇〇	七〇一	七〇二	七〇三	七〇四	七〇五	七〇六
七五二	七五三	七五四	七五五	七五六	七五七	七五八	七五九	七六〇	七六一	七六二	七六三	七六四	七六五	七六六	七六七	七六八
七〇六	七〇七	七〇八	七〇九	七一〇	七一	七一二	七一三	七一四	七一五	七一六	七一七	七一八	七一九	七二〇	七二一	七二二
七六八	七六九	七七〇	七七一	七七二	七七三	七七四	七七五	七七六	七七七	七七八	七七九	七八〇	七八一	七八二	七八三	七八四

七二二條	七二三	七二四	七二五	七二六	七二七	七二八	七二九	七三〇	七三一	七三二	七三三	七三四	七三五
七八三條	七八四	七八五	七八六	七八七	七八八	七八九	七九〇	七九一	七九二	七九三	七九四	七九五	七九六
七三六條	七三七	七三八	七三九	七四〇	七四一	七四二	七四三	七四四	七四五	七四六	七四七	七四八	七四九
七九七條	七九八	七九九	八〇〇	八〇一	八〇二	八〇三	八〇四	八〇五	八〇六	八〇七	八〇八	八〇九	八一〇
七五〇條	七五一	七五二	七五三	七五四	七五五	七五六	七五七	七五八	七五九	七六〇	七六一	七六二	七六三
八一一條	八一二	八一三	八一四	八一五	八一六	八一七	八一八	八一九	八二〇	八二一	八二二	八二三	八二四
七六四條	七六五	七六六	七六七	七六八	七六九	七八〇	七八一	七八二	七八三	七八四	七八五	七八六	七八七
八二五條	八二六	八二七	八二八	八二九	八三〇	八三一	八三二	八三三	八三四	八三五	八三六	八三七	八三八

一四

八三七	八四〇	八四一	八四二	八四三	八四四	八四五	八四六	八四七	八四八	八四九	八五〇	八五一	八五二	八五三	八五四	七九三
七九四	七九五	七九六	七九七	七九八	七九九	八〇〇	八〇一	八〇二	八〇三	八〇四	八〇五	八〇六	八〇七	八〇八	八〇九	七九二
八五五	八五七	八五六	八五八	八五九	八六〇	八六一	八六二	八六三	八六四	八六五	八六六	八六七	八六八	八六九	八七〇	七九一
八一〇	八一一	八一二	八一三	八一四	八一五	八一六	八一七	八一八	八一九	八二〇	八二一	八二二	八二三	八二四	八二五	七九〇
八七一	八七五	八七六	八七七	八七八	八七九	八八〇	八八一	八八二	八八三	八八四	八八五	八八六	八八七	八八八	八八九	七八九
八二六	八二七	八二八	八二九	八三〇	八三一	八三二	八三三	八三四	八三五	八三六	八三七	八三八	八三九	八四〇	八四一	七八八
八九〇	八九一	八九二	八九三	八九四	八九五	八九六	八九七	八九八	八九九	九〇〇	九〇一	九〇二	九〇三	九〇四	九〇五	七八七

破産法正義附録

一五

九七五	九七四	九七三	九七二	九七一	九七〇	九六九	九六八	九六七	九六六	九六五	九六四	九六三	九六二 <small>條</small>
一〇三〇	一〇二九	一〇二八	一〇二七	一〇二六	一〇二五	一〇二四	一〇二三	一〇二二	一〇二一	一〇二〇	一〇一九	一〇一八	一〇一七 <small>條</small>
九八九	九八八	九八七	九八六	九八五	九八四	九八三	九八二	九八一	九八〇	九七九	九七八	九七七	九七六 <small>條</small>
一〇四三	一〇四二	一〇四一	一〇四〇	一〇三九	一〇三八	一〇三七	一〇三六	一〇三五	一〇三四	一〇三三	一〇三二	一〇三一	一〇三〇 <small>條</small>
一〇〇三	一〇〇二	一〇〇一	一〇〇〇	九九九	九九八	九九七	九九六	九九五	九九四	九九二	九九一	九九〇 <small>條</small>	
一〇五八	一〇五七	一〇五五	一〇五四	一〇五三	一〇五二	一〇五一	一〇四九	一〇四八	〇	一〇四七	一〇四六	一〇四五	一〇四四 <small>條</small>
一〇一七	一〇一六	一〇一五	一〇一四	一〇一三	一〇一二	一〇一一	一〇一〇	一〇〇九	一〇〇八	一〇〇七	一〇〇六	一〇〇五	一〇〇四 <small>條</small>
一〇七一	一〇七〇	一〇六九	一〇六八	一〇六七	一〇六六	一〇六五	一〇六四	一〇六三	一〇六二	一〇六一	一〇六〇	一〇五九 <small>條</small>	

一〇二八	一〇二九	一〇三〇	一〇三一	一〇三二	一〇三三	一〇三四	一〇三五	一〇三六	一〇三七	一〇三八	一〇三九	一〇四〇	一〇四一	一〇四二	一〇四三	一〇四四	一〇四五	一〇四六	一〇四七	一〇四八	一〇四九										
一〇七二	一〇七三	一〇七四	一〇七五	一〇七六	一〇七七	一〇七八	一〇七九	一〇八〇	一〇八一	一〇八二	一〇八三	一〇八四	一〇八五	一〇八六	一〇八七	一〇八八	一〇八九	一〇九〇	一〇九一	一〇九二	一〇九三	一〇九四	一〇九五	一〇九六	一〇九七	一〇九八	一〇九九	一一〇〇	一一〇一	一一〇二	一一〇三
一〇五〇	一〇五一	一〇五二	一〇五三	一〇五四	一〇五五	一〇五六	一〇五七	一〇五八	一〇五九	一〇六〇	一〇六一	一〇六二	一〇六三	一〇六四																	
一一〇四	一一〇五	一一〇六	一一〇七	一一〇八	一一〇九	一一一〇	一一一一	一一一二	一一一三	一一一四	一一一五	一一一六	一一一七	一一一八																	

破産法正義附録

破產法正義附錄終

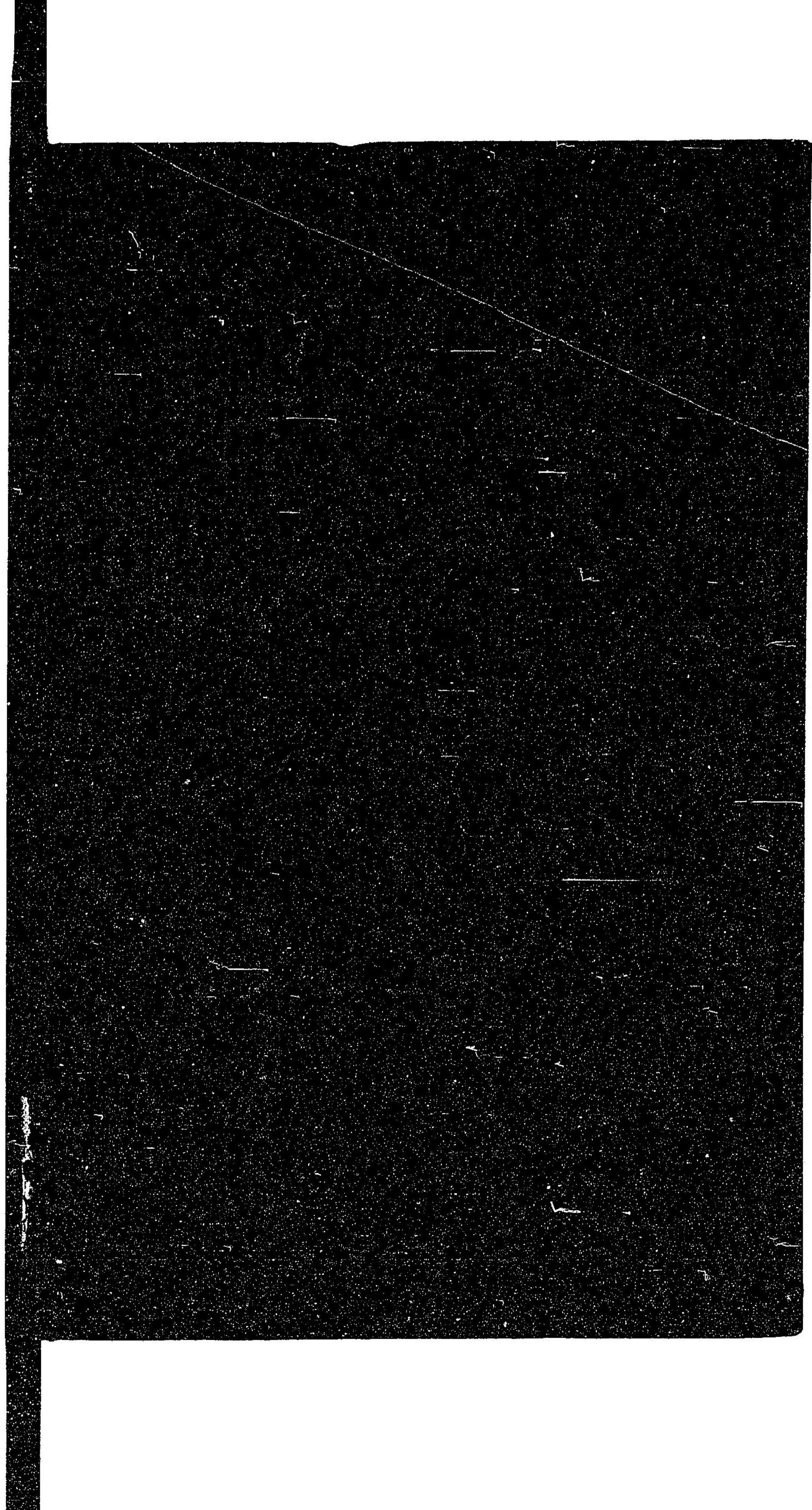
明治二十六年五月十一日印刷
明治二十六年五月十日發行



印刷所	全	全	發	發	印	著
英	京橋區西紺屋町二十六番地	日本橋區通三丁目	神田區表神保町七番地	神田區表神保町登番地(小川町通)	島	東京市麹町區永田町二丁目六十番地
秀	丸善書	明法	八尾新	新法註釋會	連太	長谷川
舍	店	堂	助	會	郎	喬

八十亥

42
7/10



42
210

037007-000-5

42-210

破産法正義

長谷川 喬 / 著

M26

BBS-0571



